

朝起きてから夜寝るまでの 不便さ調査

視覚障害者アンケート調査報告書
(要約編)

1993年10月

はじめに

商品の企画・開発・デザインに携わる人たちが中心となり、すべての人に使いやすい「共用品」を提案、普及していこうという「E&Cプロジェクト」は、2年前の春に発足しました。まず、障害のある人の暮らしを知ることが大切と、全盲、弱視などの約300人から、生活の不便さを尋ねるアンケート調査を行い、この度、その結果がまとまりました。障害者や高齢者の声に耳を傾け、これからの物づくりに生かす試みは、企業の枠を越えた社会的活動であり、目の不自由な私自身、有り難く受けとめております。

私の場合ですが、趣味は、視覚障害者向けのラジオ番組や琵琶音楽などをテープに録音し、繰り返し鑑賞することです。テープは、プラスチック面を指で触れると長さや残量がわかるようになっているものを使っています。テープレコーダーは、録音、再生などの操作ボタンが大きく、ボタン上の「▶▶」などのマークは、凹凸がはっきりとしています。このような触覚を生かせる商品によって、生活の「自立」も高まるのです。

日ごろ日本点字図書館では、個々のメーカーに商品の開発や改良についての提案を積極的に出しています。さらに、数人の職員がE&Cプロジェクトに参加、月1回の集會に場所も提供してまいりました。共用品づくりでは、メーカー同士で共通のルールづくりがカギとなります。最近、シャンプーとリンスの区別ができるよう、容器に刻みを付けたシャンプーが数社から発売されています。これは、最初に商品化した企業が、「刻み」のアイデアを同業他社に使ってもらおうというオープンな姿勢をとったことで、共用品として成功した事例と言えるでしょう。

本書を物づくりに携わる方々に広く活用していただき、社会から障害のある人となない人の壁がなくなっていくことを切に願っております。

最後に、本書にご助成いただきました社会福祉・医療事業団（長寿社会福祉基金）に対し、心から厚く御礼を申し上げます。

平成5年10月

社会福祉法人 日本点字図書館

理事長 本間 一夫

調査報告書によせて

ゆたかな社会をめざして、様々な生活用具が開発され、街の環境整備も着々とすすめられています。しかし、このめざましい産業経済発展の中であって、人々のためのモノづくり、環境づくり、サービスの仕方、受け方など私達の生活を取り巻くモノやサービスの環境は、本来あるべきデザインマインドが必ずしも行き届いているとはいえません。

これまでは、身体の不自由な人、高齢で体力が弱まった人、突然のケガや病気で身体障害者になった人達の立場にたった考え方は、諸般の都合で軽視されてきました。すべてが完璧というのは不可能ですが、ほんの少しの気配り設計やデザインによって、多くの障害者に安心と使い易さを提供できることは確かです。それは同時に、健常者にとってもより使い易い便利なものでもあります。これを共用品と呼んでいます。

E&Cプロジェクトは、このような配慮を積極的に設計、デザインに取り入れていくことを各方面に提案していく活動チームです。

まず、様々な身体障害の中で、最初に視覚障害を調査対象に取り組んだ結果がこの報告書です。幸い、日本点字図書館に事務局として最大のご協力をいただき、このまとめに至ることができました。

この調査の中から、今回の研究提案アイテムとして取り上げたのは、

- 1) 家電製品のスイッチ
- 2) キャッシュディスプレイ
- 3) プリペイドカード
- 4) 駅や街などの誘導について

の4つで、展示会にこれらの具体的な提案がなされます。

E&Cプロジェクトの活動は、まだ緒についたばかりで、これから様々な身体障害をグローバルに観察・調査し、多くの共用品を提案し、バリアフリーの社会づくりに役立ちたいと考えています。

また、各業界のタテ割り意識、タテ割り行政が大きなバリアにならぬよう理解を得たいとおもいます。生活者主体の共生社会づくりには、多分野の横断的な視野が是非必要だと考えます。世界が変わる21世紀、高齢化社会が目前に迫っている今、新設計基準を創らねばなりません。

様々な業種、立場の人が集まっているE&Cプロジェクトが横断的なコーディネーターの役割を果たすことも目標のひとつにしたいと思います。このまとめにあたり、社会福祉・医療事業団（長寿社会福祉基金）のご助成に深く感謝申し上げます。

平成5年10月

E & C プロジェクト
会長 鴨志田 厚子

(註)日本インダストリアルデザイナー協会前理事長

目 次

はじめに

調査報告書によせて

調査の概要	1
回答者のプロフィール	2

【家の中の生活】

家の中の生活で不便に感じている点 (Q1)	10
使いにくい家電品について (Q12~13)	13
家電品の不便さの内容 (Q13-2)	14
音声対応にして欲しい商品 (Q14-1)	16
音声化して欲しい内容 (Q14-2)	17
危険を感じる為、使えないもの (Q15)	18
家電品以外の日用品で使いにくいもの (Q16)	19
同じ様な外形で種類や中身が区別しづらい商品 (Q17)	20
家庭に配布・配達されるもので確認・対応に困ること(Q18) ..	21

【家の外の生活】

家の外の生活で不便に感じている点 (Q24)	24
カード所有枚数 (Q25)	27
カードを使う上で困っている点 (Q26)	28
CD, ATMの使用について (Q27)	30
外出で困ったこと(Q29)	31
一人で外出する際、手がかりにするもの (Q30)	32
外出の際、改善して欲しいこと (Q31)	33
音・音声で 役立っている点, 不便な点 (Q32)	35

【商品の購入】

利用しやすいお店, その理由 (Q2~3)	38
利用しにくいお店, その理由 (Q4~5)	41
買物をする際, お店に望むこと (Q6)	44

【商品情報の入手】

買いたい商品の情報をどこから得ていますか (Q7)	46
商品の取扱いがよくわからないときは (Q8)	47
現状の取り扱い説明書について (Q9~11)	48

【日常生活の工夫・要望】

日常生活で工夫している事・工夫している物 (Q19)	52
便利な物・便利な事・便利な情報 (Q20)	53
盲人用に配慮されていない為, 購入しない商品 (Q21)	54
世の中になくて, あったら良い商品 (Q22)	55
趣味・遊び・勉強・その他でやってみたいこと (Q23)	56

結果のまとめと考察	57
-----------------	----

調査シート	64
-------------	----

参考資料・視覚障害者の見え方の程度	70
-------------------------	----

・厚生省 身体障害児・者 実態調査結果概要 ...	72
---------------------------	----

調査の概要

1) 調査目的

視覚障害者の日常生活における不便さを把握し、多くのメーカーが共通の方針で取り組んでいける「ガイドライン」をつくるための基礎データとします。

2) 調査内容

調査は、家の中と、外の生活に大きく分け、1日の生活をふり返ってもらい、32項目の質問をしました。まず最初に、家の中で感じている不便さを上位5つまであげてもらい、その後、使いにくい家電製品について、危険を感じるために使えないものなどの各質問に入りました。家の外についても同様に、まず家の外で感じている不便さを上位5つまであげてもらった後に、各質問に入るようにしました。特に今回の調査票の特徴として、視覚障害者からの生の声を聞き取るため、自由回答の設問を多用しています。(全体の約2/3)

3) 調査対象と調査対象者募集方法

a) 調査対象：全国の視覚障害者

b) 調査対象者募集方法

点字毎日新聞、有線放送（JBS日本福祉放送）、日本点字図書館発行のテープ雑誌、点字ニュースにより公募

(応募者総数406人)

4) 調査方法：調査票による郵送配布、郵送回収

5) 調査期間（調査票発送から回収まで）：平成4年12月1日～21日

6) 調査回答数

回答者総数279人（点字213人、すみ字66人）

(回答率69%)

7) 自由回答のまとめ方について

自由回答の集計については、表現は異なっても同じ内容の回答を集め、それらの上位概念にあたる言葉をつけ、いくつかのグループにまとめました。これらのグループごとに記号を付与し、コンピューターに入力して分析を行いました。

8) 調査設計・分析：E&Cプロジェクト調査班

回答者のプロフィール

平成3年11月に厚生省が行った身体障害児（者）の実態調査によると、次項以下のとおり、視覚障害者の男女比では女性が男性を3%ほど上まわり、年齢階級別状況では、70歳代が最も多くて41.1%を占め、年齢階級が低くなるにしたがって、その構成比の減少がみられます。また、視力の程度では、1、2級の重度の者が57.5%を占めています。

一方、点字を読み書きできる者は、1、2級者の20万人のうち4万人、すなわち5人に1人と言われています。（3級以下の点字使用者は極めて少ない。）

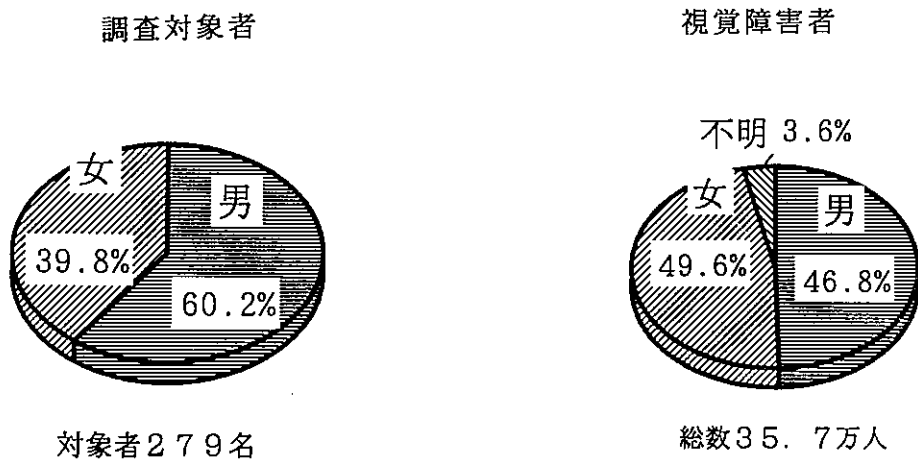
ところが、今回のわれわれの調査では、回答者の男女比、年齢階級別状況、視力の程度、点字の読み・書きの可否の割合に、上記データとの顕著な違いが見られました。例えば、男女比では60対40で男性が多く、年齢階級別では40歳代が最も多くて28.7%、そして50歳代、30歳代、60歳代とつづいています。また、視力の程度では、約90%が1、2級者であり、そのうち、点字を不自由なく書く者が約80%、読める者が約70%と極めて高い率を示しています。

この特徴は、今回の調査を日本点字図書館の読者中心に行ったためと思われる。なぜならば、日本点字図書館が平成3年度に行った登録利用者の集計データに酷似しているからであり、それだけに整合性はあると思われる。

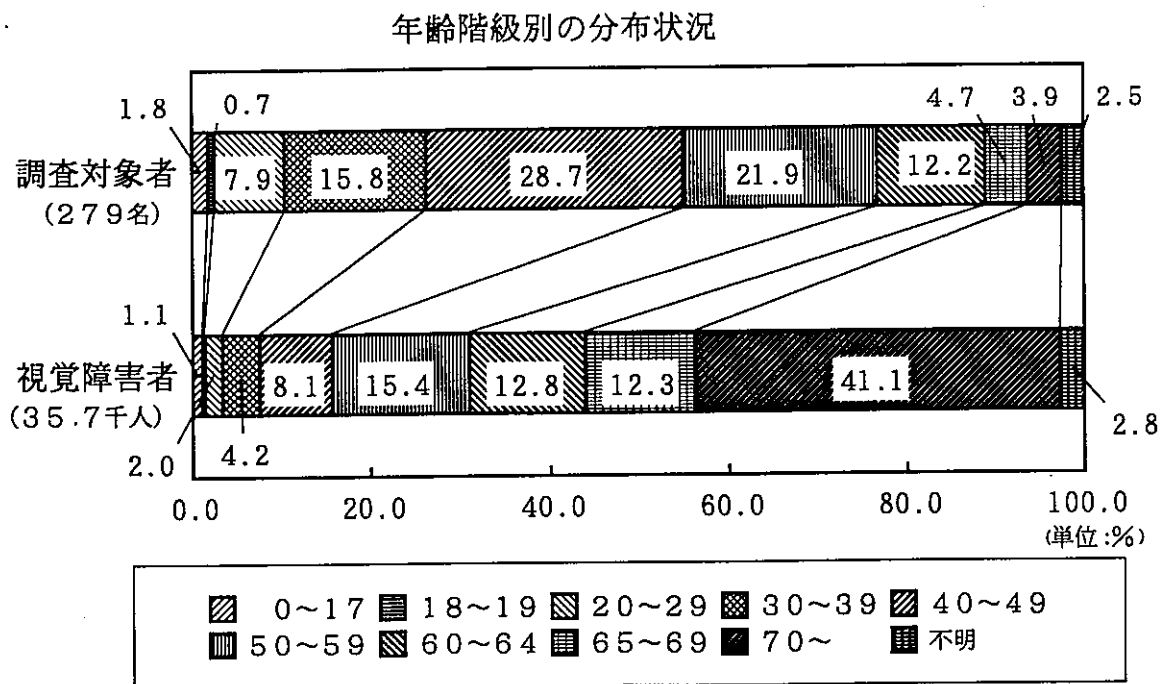
その他の項目については、比較すべき正確なデータを持ち合わせていませんが、ここでも回答者の日常生活における積極的な姿勢が伺えます。例えば、「自立の原点のひとつ」と言われている一人歩き（Q38）については、白杖を使用する、使用しない、盲導犬使用の合計が、73.5%にものぼり、歩行の不便さを克服していることがわかります。この傾向は、外出（Q43）、旅行（Q45）の項目にもよく現れています。

情報の入手方法（Q42）については、ラジオやテレビ、テープが点字を凌ぎ、指先に頼る点字誌よりも、耳から入る情報に、より多く頼っていることがわかります。特に、鮮度の新しい情報を得る手段が、視覚に訴えるテレビよりも、音声だけのラジオが上まわって第一位と言うのは、それだけ、目の不自由な人達にとっては、ラジオが必需品であるということがわかります。

- 性別 (Q34)

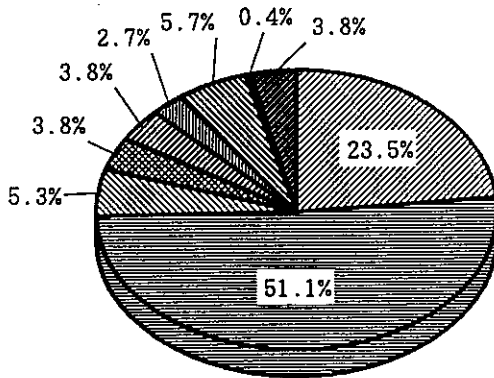


- 年齢 (Q35)

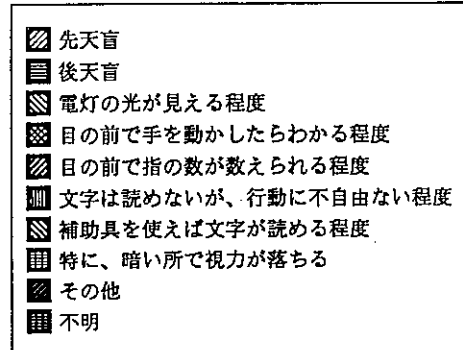


・ 視力の程度 (Q36)

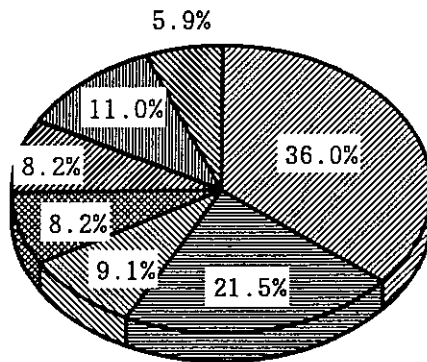
調査対象者



対象者279名



視覚障害者

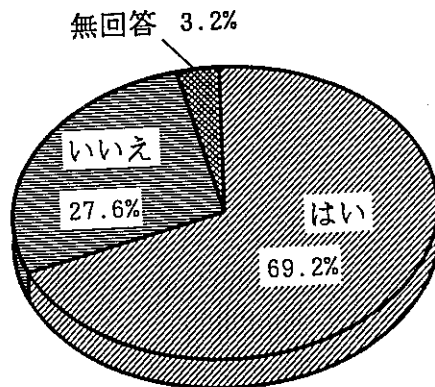


総数35,3千人
(0~17才を含まず)



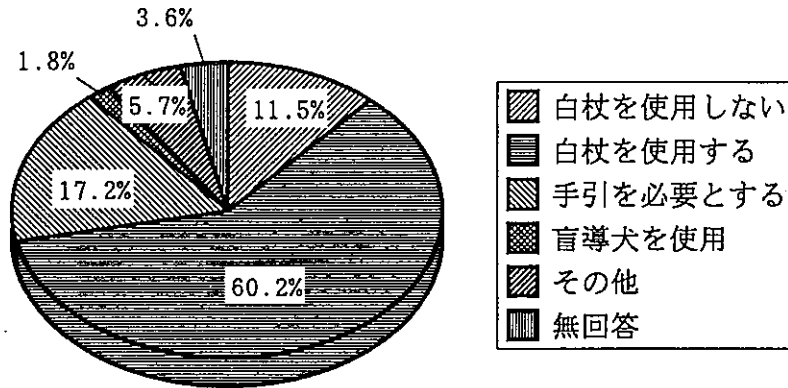
(等級の詳細については、
巻末資料参照)

・ 晴眼者と同居していますか (Q37)



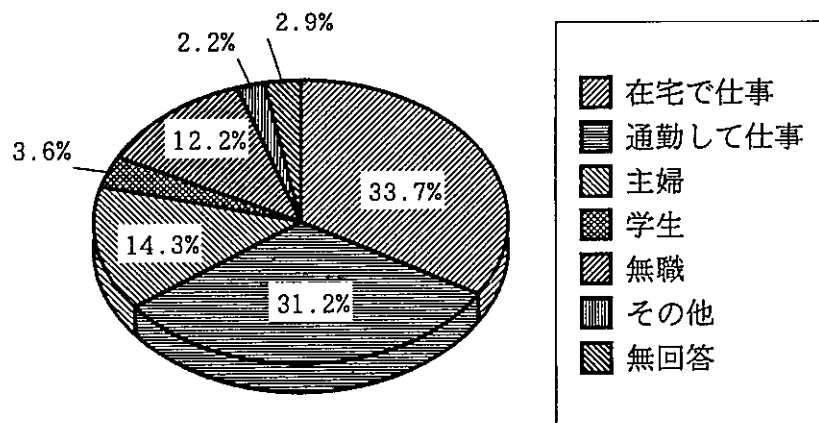
対象者279名

・ 一人での歩行について (Q38)



対象者279名

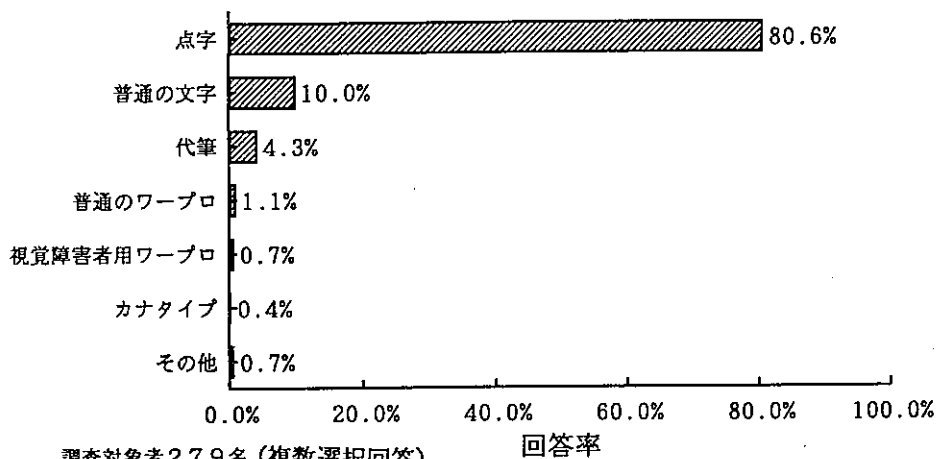
・ 職業について (Q39)



対象者279名

- 普段、書くときに使う文字は何ですか

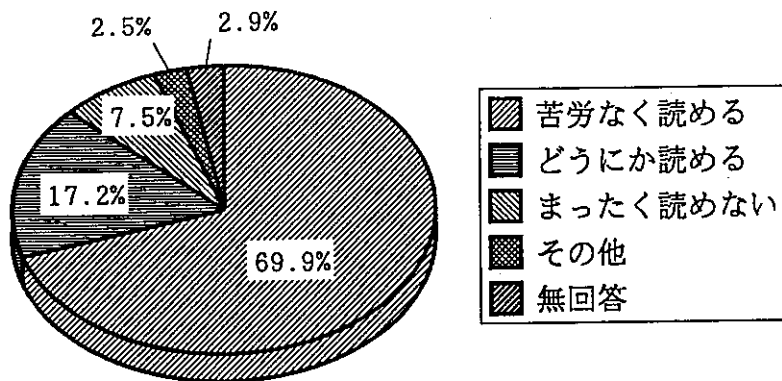
(Q40)



調査対象者279名(複数選択回答)
無回答者6名、2.2%

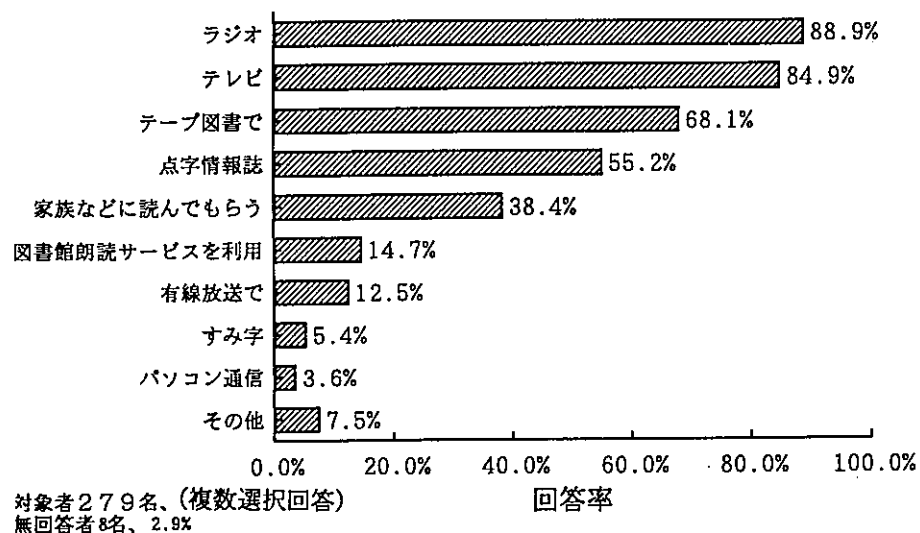
* 回答率 = (回答者 / 対象者) × 100

- 点字は読めますか (Q41)

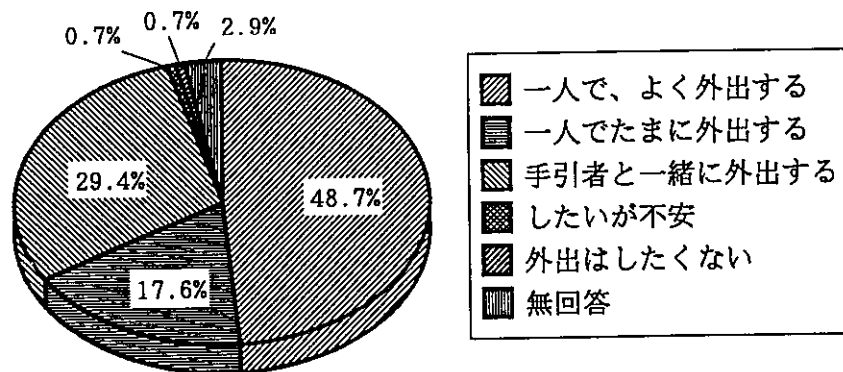


対象者279名

・ ニュースなどの情報を知る方法は (Q42)



・ 外出はよくしますか (Q43)



対象者279名

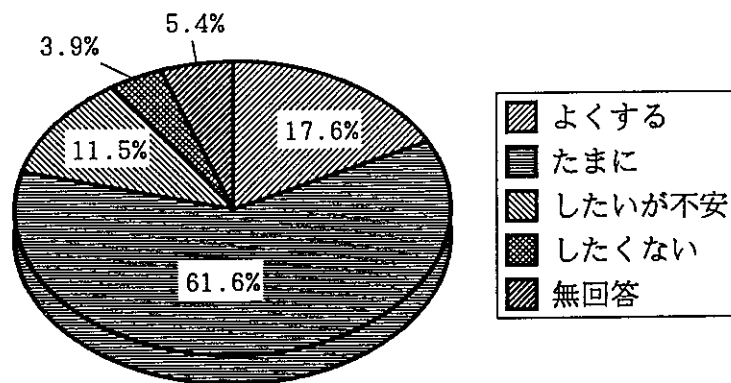
- ・ Q 4 3 で「外出したいが不安」
「外出したくない」と答えた人の理由 (Q 4 4)

※上位3項目

理 由	件数
外出したくない	3件
一人であるくのは危険	2件
つまらない	2件

(総回答数14件)

- ・ 旅行はしますか (Q 4 5)



対象者279名

- ・ Q 4 5 で「旅行したいが不安」
「したくない」と答えた人の理由 (Q 4 6)

※上位6項目

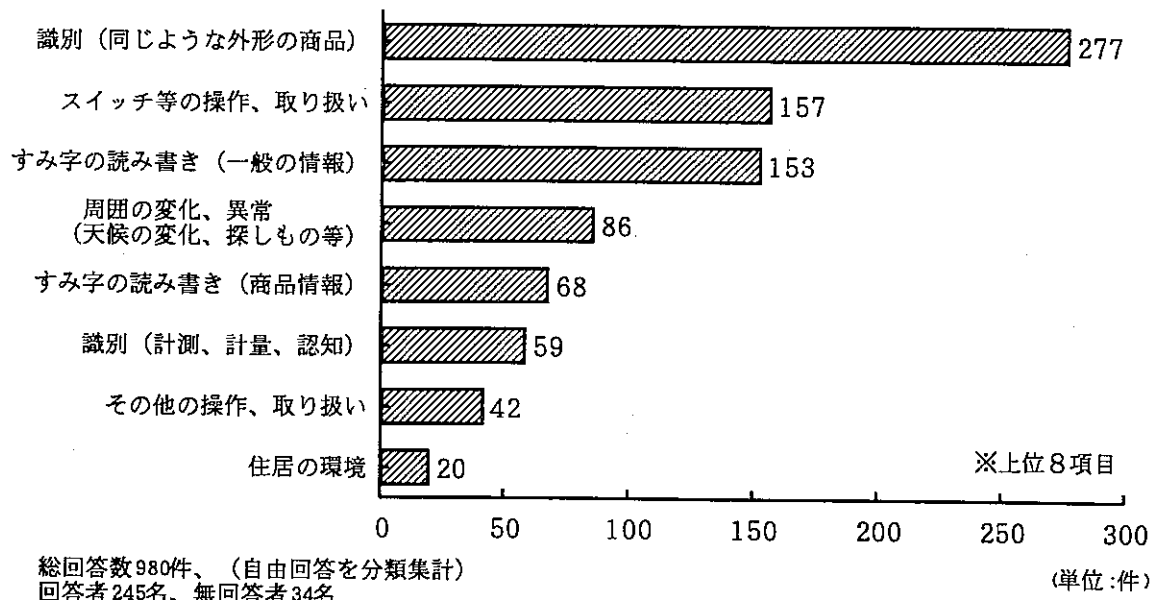
理 由	件数
一人歩きが不安	8件
介添者がいない	7件
精神的に疲れる	7件
経済的理由	7件
病気のため	5件
介添者の負担になるので	4件

(総回答数59件)

家の中の生活

家の中の生活で不便に感じている点 (Q1)

はじめに、家の中の生活についてお伺いします。
あなたが普段、日常生活の中で不便さを感じている点を上位5つまであげてください。



Q1は、「家の中における、日常生活の不便さ」を、自由回答により上位5つまであげていただく設問です。245名の方から、総計980件の回答がありました。(1人当たり平均約4件) 回答を内容に従って分類し、集計した結果が上のグラフです。「識別 (同じような外形の商品)」「スイッチ等の操作・取扱い」「すみ字の読み書き (一般の情報)」など、3つの分類項目が高い割合を占めました。

■「識別 (同じような外形の商品)」 (277件)

形が同じか似ている為、その内容や種類がわからないという不便や悩み。挙げられた対象品目は、各種パック類、パック食品、缶詰食品、ビン詰食品、缶飲料、ビン飲料、パック飲料、各種調味料、靴下・ネクタイを含む衣類、履物、紙幣、切手、はがき、カード類、薬、歯ブラシ、シャンプー・リンス、整髪料、化粧品、洗剤類、食器、寝具、カセットテープ、靴墨など多岐にわたっています。不便さの内容は「中身がわからない」ということに尽きますが、具体的には「色や柄」「組み合わせ」「上下・左右・表裏」「種類」「用途」「自分用・他人用」などがわからないというものです。

■「スイッチ等の操作・取扱い」 (157件)

家電製品をはじめとしてスイッチ類の操作に困り、機器を十分に使いこなせないという悩みです。対象品目には、照明器具、AV、風呂、洗濯機、エアコン、ストーブ、冷蔵庫、電子レンジ、電気炊飯器、ポット、電話機、ワープロなどが挙がりました。不便さの内容はスイッチ、ボタン類の凹凸が少なく、タッチ式であることや、表示類を見て動かすものが多く、しかも液晶等、光による表示のため操作が困難になっているという点です。

■「すみ字の読み書き（一般の情報）」（153件）

すみ字とは、点字以外の一般に用いられる表記の総称です。情報のほとんどにすみ字が用いられている為、その入手における不便は相当なものになります。新聞・書籍はもちろん業務に用いられるワープロの資料、学習に用いられる辞書や教科書、黒板やスライドも含め、活字・映像情報の全てがわかりません。挙げられた対象品目にはこの他、郵便物、ダイレクトメール、役所など公共機関からの通知、預金通帳類、請求書、領収書、伝票、メモ、不在通知、小荷物、宅急便、回覧版、電話帳、テレビの字幕等がありました。

■「周囲の変化・異常」（86件）

天候の変化、家内外の汚れ、さがしものに関する不便や悩みです。目の前にあるものでも手に触るまでわかりません。ですから落とし物をした時など大変です。又、決められた位置を移動されると探すのがひと苦勞です。衣類や家の中の汚れに日頃注意を払っていますがどこがどの程度汚れているのか見当がつかえません。家の中にいて、天気の変化や日没がわかりません。従って、部屋のあかりをつけたり、消したりするタイミングがつかめません。不意の来客に暗闇から顔を出して、相手をびっくりさせる事もあります。

■「すみ字の読み書き（商品の情報）」（68件）

製品やパッケージ、説明書に記載された商品名、使用方法、内容量、有効期限、添加物、注意事項等がわかりません。対象品目として、電気製品、食料品、飲料、衣類、家庭用雑貨、化粧品、薬品、洗剤、パソコンなどが挙がりました。

■「識別（計測・計量・認知）」（59件）

液体の計量、重さや温度の計測、図形の認識など、事象の認知に関する不便です。特に液体の計量に苦勞があるようです。水、お湯、お茶、牛乳などをコップなどに注ぐ事。ポットの湯量、炊飯時のお釜と水の量、しょうゆ、酢、みりん、食用油、病院の薬、液体洗剤、灯油などの適量が確認できません。ガスコンロの炎の具合、生鮮食品の鮮度、火を使う料理の際の焼き具合や煮物の具合がわかりません。本来、立体感のあるものが平面の図になっている場合、説明を受けても理解しにくいようです。訪問者が知人であっても、声を聞くまで誰であるかわかりません。

■「その他の操作・取扱い」（42件）

容器、機器、道具類の操作・取扱いに関する不便です。特に、食品包装の開け口のわかりにくさや、内容物の移し替えに苦勞があります。他に、洗濯、掃除、縫い物、調理、配膳、爪きりやお化粧に至るまで、生活のいろいろな場面で不便さを感じています。

■「住居の設備・環境」（20件）

点字の資料や書籍がかさ張るので、その置き場に困るという収納スペースの問題があります。又、掃除がうまく出来たかどうかは手で触って確認します。ですから、高いところの掃除が困難となります。家の中や周囲の突起や小さな段差は、行動を不自由にします。

■ 「コミュニケーション上のハンディキャップ, など」 (11件)

この分類に含まれる回答は少数なので、グラフにはのせていませんが深刻な内容です。一部を原文のまま記載します。

「近所づきあいが普通の人と同等に出来ない」

「夫婦共に全盲であるため、やはり視力を必要とするものに不自由さを感じています」

「全て不自由ですが、今のところ日常生活の事は実家のお世話になっているのでどうか生きがいを保っている」

Q1 (男女別)

	男性	女性	計
識別 (同じような外形の商品)	159 (27)	118 (30)	277 (28)
スイッチ等の操作・取扱い	110 (19)	47 (12)	157 (16)
すみ字の読み書き (一般の情報)	97 (16)	56 (14)	153 (16)
周囲の変化・異常	46 (8)	40 (10)	86 (9)
すみ字の読み書き (商品の情報)	20 (3)	48 (12)	68 (7)
識別 (計測・計量・認知)	40 (7)	19 (5)	59 (6)
その他の操作・取扱い	28 (5)	14 (4)	42 (4)
住居の設備・環境	16 (3)	4 (1)	20 (2)
コミュニケーション上のハンディキャップ など	7 (1)	4 (1)	11 (1)
その他	3	0	3
家の外の不便	66 (11)	38 (10)	104 (11)
計	592 (100)	388 (100)	980 (100)
無回答	16	18	34

- ◀・男性の側が他に比べ高率なのは
「スイッチ等の操作・取扱い」
- ・女性の側が他に比べ高率なのは
「すみ字の読み書き (商品の情報)」

- ▼・20才未満が他に比べ高率なのは
「すみ字の読み書き (一般の情報)」
「その他の操作・取扱い」
- ・20代が他に比べ高率なのは
「識別 (計測・計量・認知)」
- ・30代が他に比べ高率なのは
「識別 (同じような外形の商品)」
- ・60代が他に比べ高率なのは
「コミュニケーション上のハンディキャップ, など」

数字は件数： () 内は各性別の合計を100とした時の%

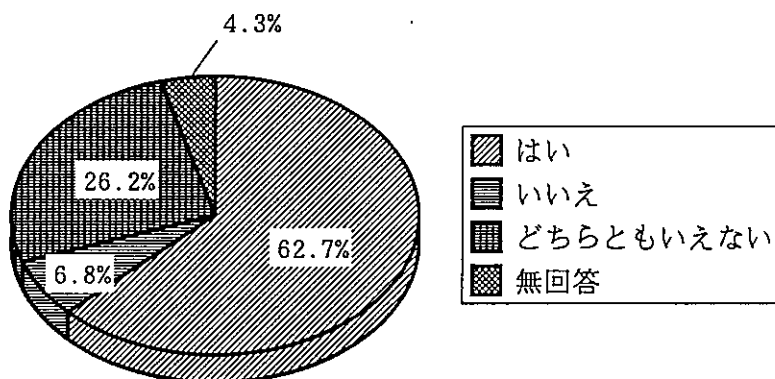
Q1 (年代別)

	0才～	20才～	30才～	40才～	50才～	60才～	不明	計
識別 (同じような外形の商品)	3 (13)	23 (30)	54 (34)	87 (28)	57 (29)	44 (23)	9	277 (28)
スイッチ等の操作・取扱い	4 (17)	13 (17)	21 (13)	54 (17)	33 (17)	30 (16)	2	157 (16)
すみ字の読み書き (一般の情報)	7 (29)	8 (11)	29 (18)	46 (15)	28 (14)	33 (17)	2	153 (16)
周囲の変化・異常	4 (17)	5 (7)	13 (8)	23 (7)	18 (9)	19 (10)	4	86 (9)
すみ字の読み書き (商品の情報)	0 (0)	5 (7)	16 (10)	29 (9)	7 (4)	10 (5)	1	68 (7)
識別 (計測・計量・認知)	1 (4)	10 (13)	7 (4)	16 (5)	11 (6)	13 (7)	1	59 (6)
その他の操作・取扱い	3 (13)	1 (1)	2 (1)	14 (4)	13 (7)	9 (5)	0	42 (4)
住居の設備・環境	0 (0)	1 (1)	3 (2)	8 (3)	3 (2)	5 (3)	0	20 (2)
コミュニケーション上のハンディキャップ など	0 (0)	1 (1)	2 (1)	3 (1)	0 (0)	5 (3)	0	11 (1)
その他	0	0	1	0	1	1	0	3
家の外の不便	2 (8)	9 (12)	9 (6)	34 (11)	29 (15)	20 (11)	1	104 (11)
計	24 (100)	76 (100)	157 (100)	314 (100)	200 (100)	189 (100)	20	980 (100)
無回答	1	2	5	7	8	9	2	34

数字は件数： () 内は各年代別の合計を100とした時の%

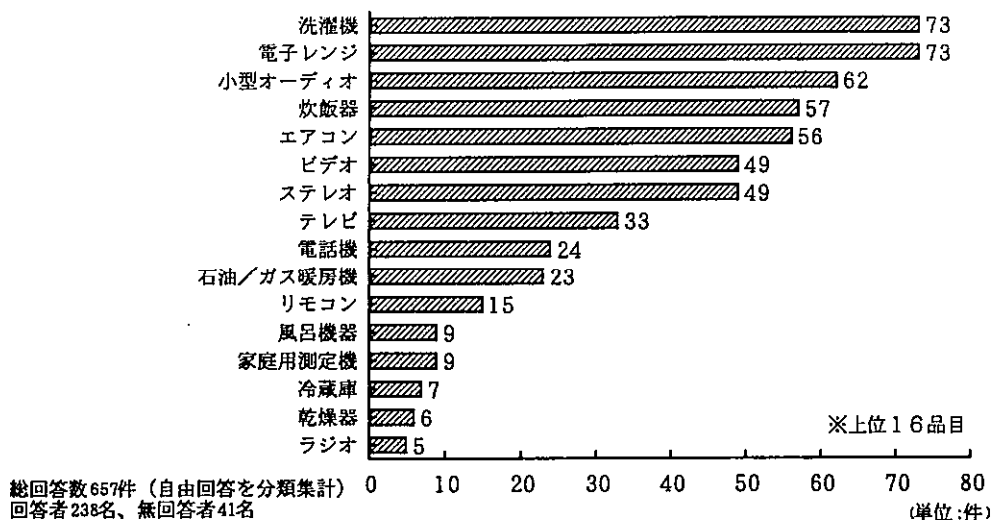
使いにくい家電品について (Q12~13)

12. 家電製品などは、以前に比べて使いにくくなったと思いますか？



対象者279名

13-1 使いにくい家電製品をいくつでもあげてください。



約2/3の人が「最近の家電品は使いにくくなった」と感じています。

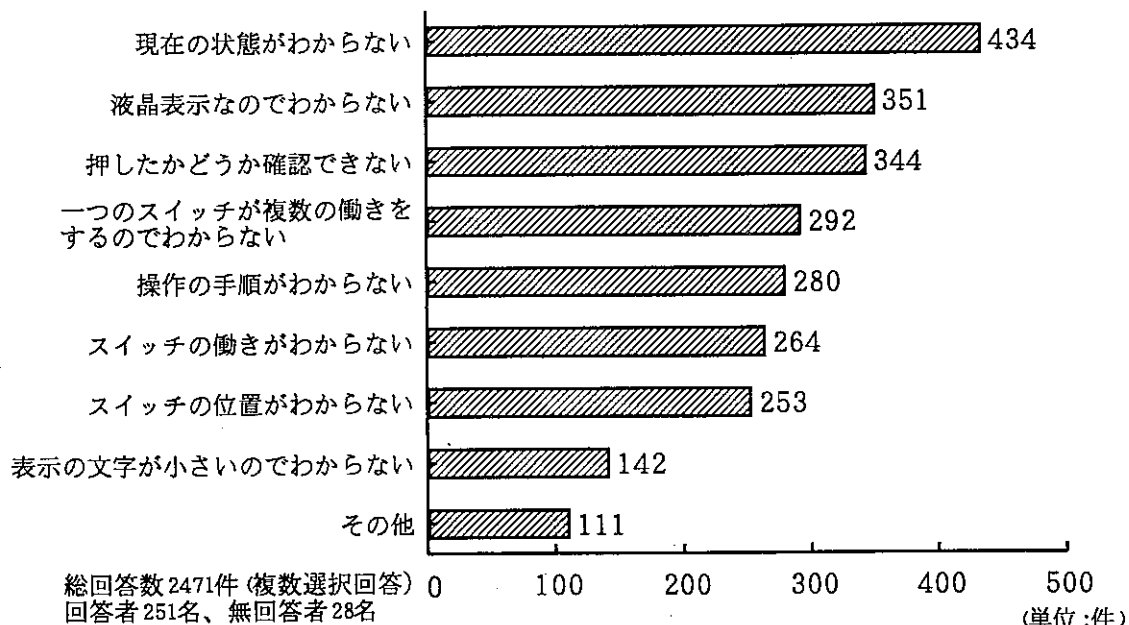
Q13-1のグラフは、「使いにくい」と指摘された件数を示しますが、「洗濯機」「電子レンジ」「ラジカセなどの小型オーディオ」「炊飯器」「エアコン」「ビデオ」「ステレオ」など、毎日のように使う必需品に指摘が集中しています。

一方、冷蔵庫には指摘が少ないことを考えると、使いにくい機器では、表示やボタン操作などに問題があると考えられます。(Q13-2参照)

なお、「視覚障害者はテレビやビデオを利用しない」と思われがちですが、これは全くの間違いで、ニュースなどの情報源として、またドラマや映画など楽しみの道具として、目が見える人と同じように、簡単な操作のものを求めています。

家電品の不便さの内容 (Q13-2)

13-2 使いにくい理由を下記の中から選んでください。



上のグラフは、「使いにくい機器」を回答した人が、その理由として挙げた件数を示します。一人で複数の機器を挙げ、各々に多くの理由を挙げた人もいますので、回答者数を越える数字が出ているものもあります。

「(今の機能が働いているかなどの)現在の状態がわからない」「液晶表示なので(機能の種類や、タイマーの数字などが)わからない」「(スイッチが)押したかどうか確認できない」という指摘が上位となっています。

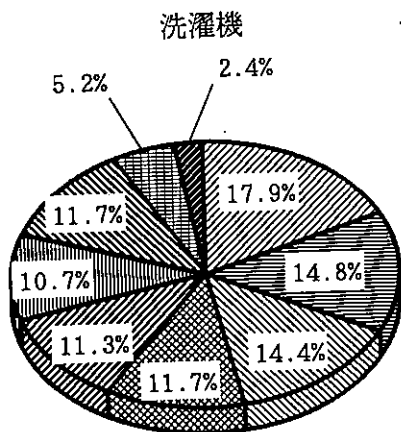
これらは、「液晶表示を見ながら、ボタンで機能を選ぶ。押した結果も液晶に表示される」という、最近の家電品の「視覚中心の操作方式」に問題があることを示していると考えられます。

「スイッチの働き」や「操作の手順」のわかりにくさ、「表示の文字の小ささ」などは、目が見える人にとっても、同じように大きな問題です。

また次項は、上記理由が、使いにくい家電製品(Q13-1)上位3点に占める割合を示します。

不便利な家電製品上位3点の

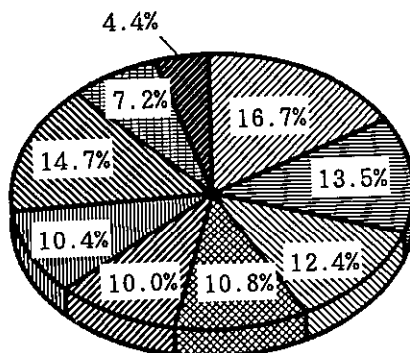
使いにくい理由内訳



- ▨ 現在の状態がわからない
- ▨ 液晶表示なのでわからない
- ▨ 押したかどうか確認できない
- ▨ 一つのスイッチが複数の働きをするのでわからない
- ▨ 操作の手順がわからない
- ▨ スwitchの働きがわからない
- ▨ スwitchの位置がわからない
- ▨ 表示の文字が小さいのでわからない
- ▨ その他

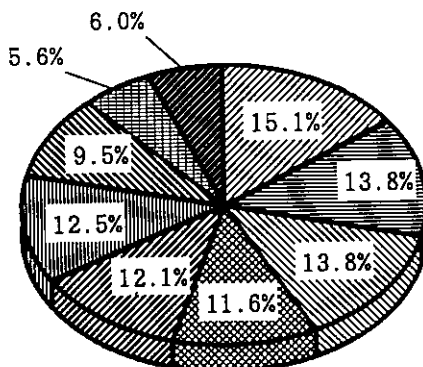
合計291件

電子レンジ



合計251件

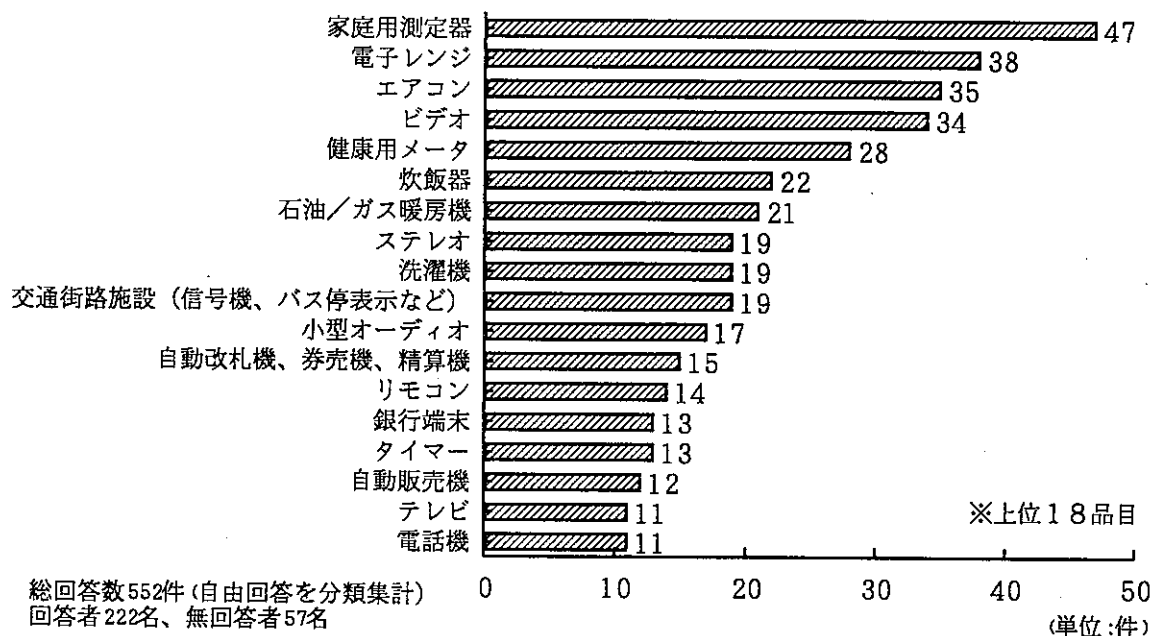
小型オーディオ



合計232件

音声対応にして欲しい商品 (Q14-1)

音声対応にして欲しい物は何ですか？（家電製品以外でも）



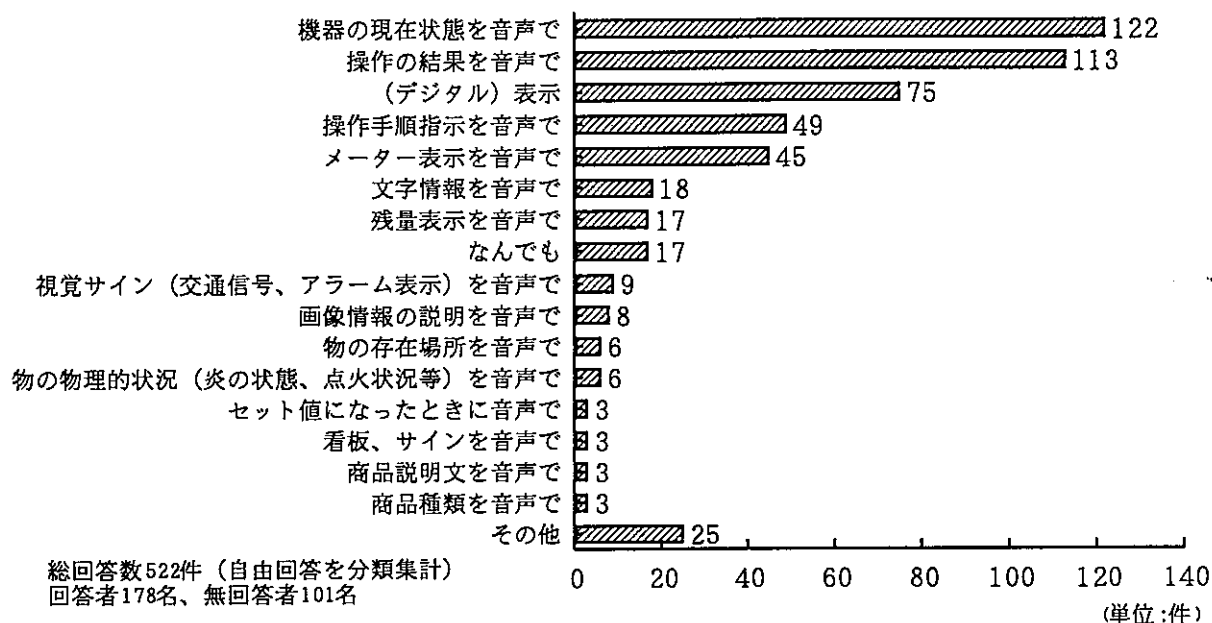
もっとも要望が多いのが、はかり、ものさし、温度計などの家庭用測定器です。また、体重計や万歩計などの健康用メーターについても、「声で数値を知らせて欲しい」との要望が多くでています。

一方、Q13で「使いにくい」と指摘された家電製品も、多く挙げられており、特に、タイマー操作や予約操作、あるいは複雑な操作を必要としている家電製品について、「液晶表示によらず、声で操作を示して欲しい」との要望がでています。

さらに、交通街路施設、自動改札機や銀行端末など、日常生活の様々な面で、視覚以外の聴覚や触覚を活用できる道具が要望されている、といえそうです。

音声化してほしい内容 (Q14-2)

具体的に、どこを音声化してほしいですか？

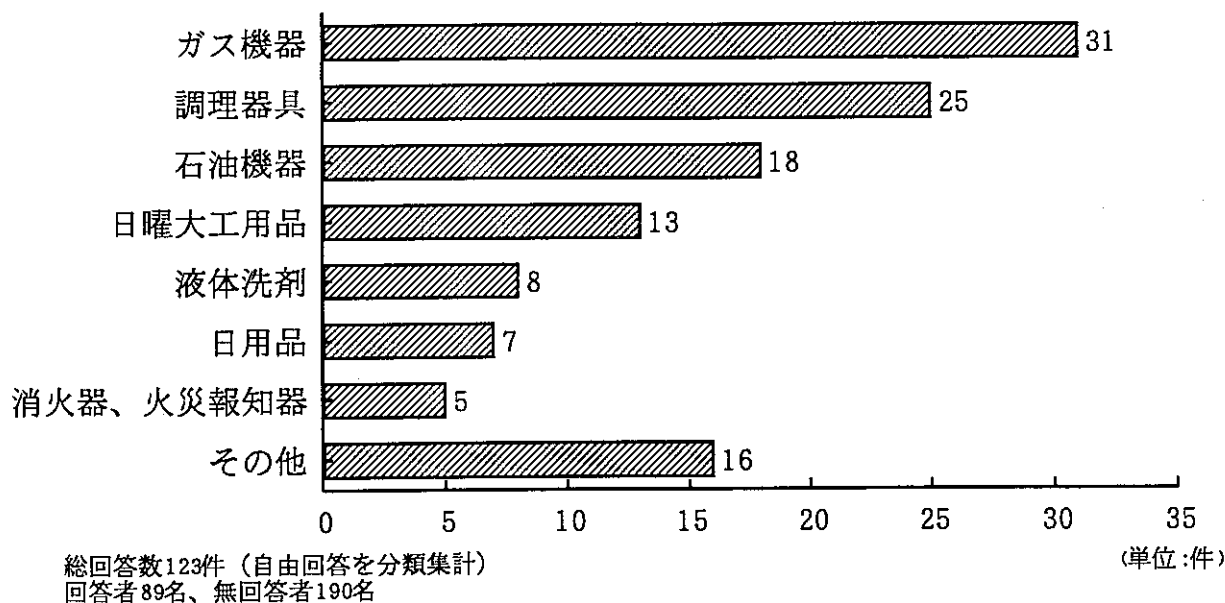


Q13-2で、家電製品の不便さの要因として指摘された、「現在の状態がわからない」「液晶表示なのでわからない」「押したかどうか確認できない」「操作の手順がわからない」などの問題点を解決する手段として、音声化が期待されています。

なお、「(デジタル)表示」とは、家電製品などのタイマー時刻や温度の液晶表示を、また「メーター表示」とは、体重計や温度計などの数値や目盛の表示をいいます。

危険を感じる為、使えないもの (Q15)

危険を感じるため、使えない物がありますか？
また、その理由を教えてください。



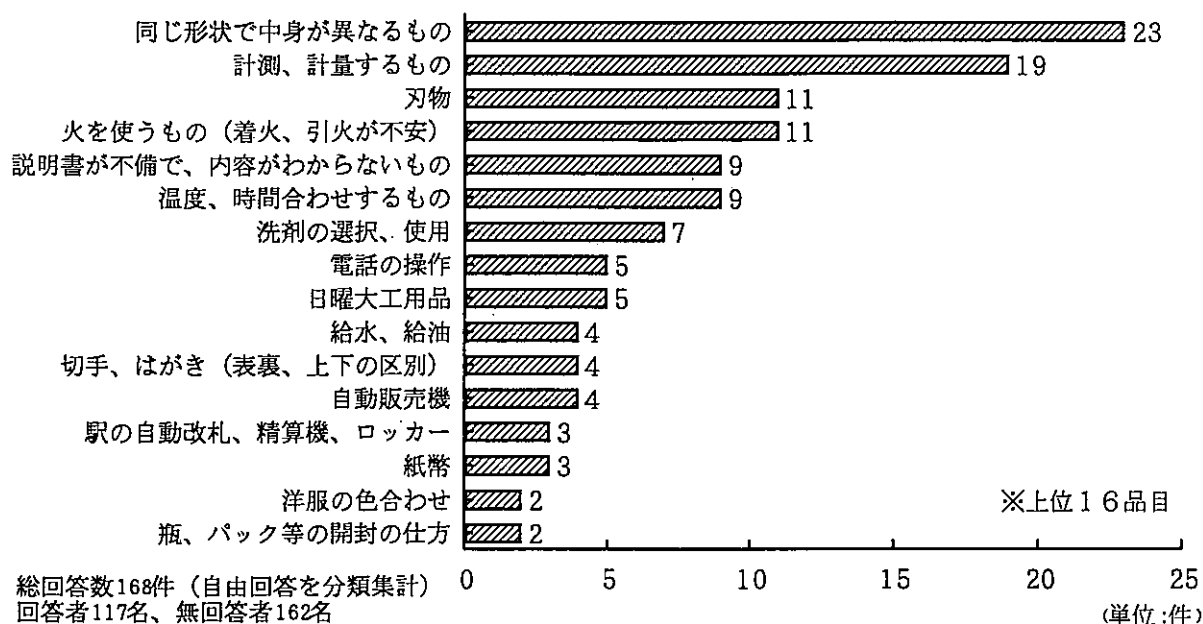
「石油機器」、「ガス器具」、「調理器具」といずれも、火を使うものが、上位3項目に挙げられています。着火の確認ができないことと、操作中にやけどの危険があるためです。また、石油機器では、引火による火災も大きな理由になっています。男女別に見てみると、ガス機器、石油機器は男性の方が多く、ガスコンロなどの調理器具は女性が多くなっています。

また、「消火器」や「火災報知器」を使えないものとしてあげているのは、調理の時など火を使う機会が多いためか、女性の方が多くなっています。

さらに「液体洗剤」は、手で触ることができない物があり、目の不自由な人にとって、目にかわる手を痛める危険性があります。また、「混ぜてはいけない」などの取扱い上の注意を読むことができないことも危険で使えない大きな理由となっています。

家電品以外の日用品で使いにくいもの (Q16)

家電製品以外の日用品で使いにくい物がありますか？
また、その理由を教えてください。



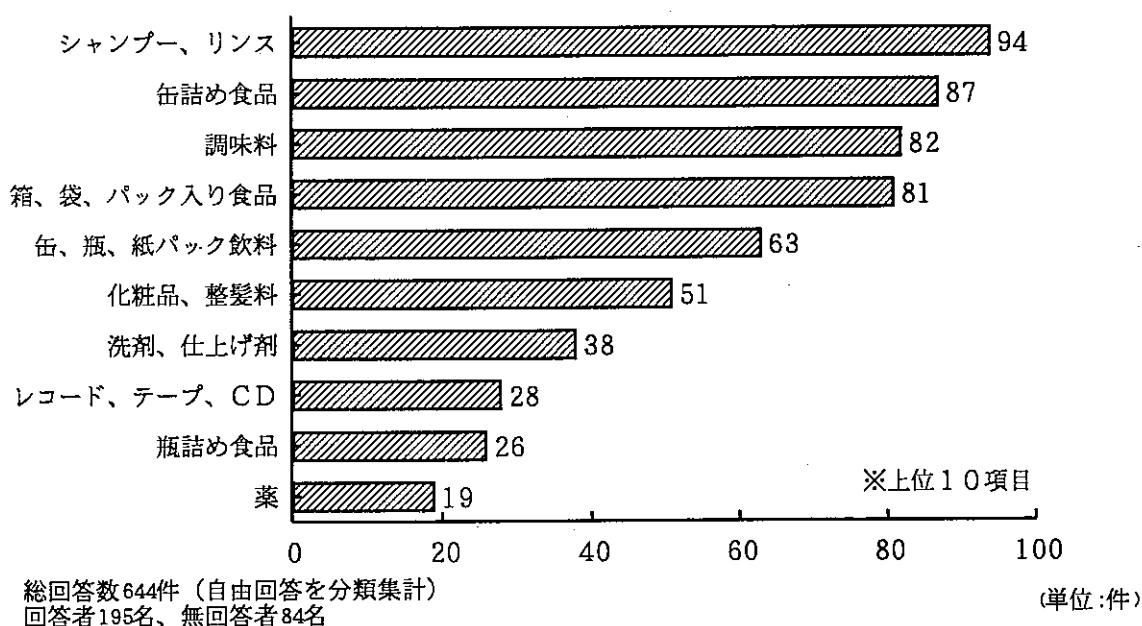
視覚障害者は、「同じ形状で中身が異なるものの区別」に、ふだんもっとも不便さを感じています。これは、生活する色々の場面（買い物、調理、化粧、整髪、飲食など）で、必ず出てくる問題です。次に「計測、計量すること」が多く、調理の際の調味料の計量や、油の温度、気温や体温、体重などの計測です。特に体温計については、健康管理上特に必要なものなので、音声化が切望されています。

また、「温度、時刻あわせをずるもの」については、エアコン、風呂の温度、時計などを設定しようとしても、機器の方が今何を表示しているのかわからないので、操作ができません。乗り物の「精算機」や「自動販売機」も同様です。「刃物」や「火を使うもの」は、危険をとまなうので扱いにくいとしています。「日曜大工用品」も同様です。

また、回答件数は少ないですが、「紙幣」が使いにくいことは、大きな問題といえます。（現在の紙幣には、識別のための凸記号が薄く表示されていますが、識別できるのは新札の時だけで、数回使われると役に立ちません。）

同じ様な外形で種類や中身が区別しづらい商品 (Q17)

同じような外形で、種類や中身が区別しづらい商品がありますか？



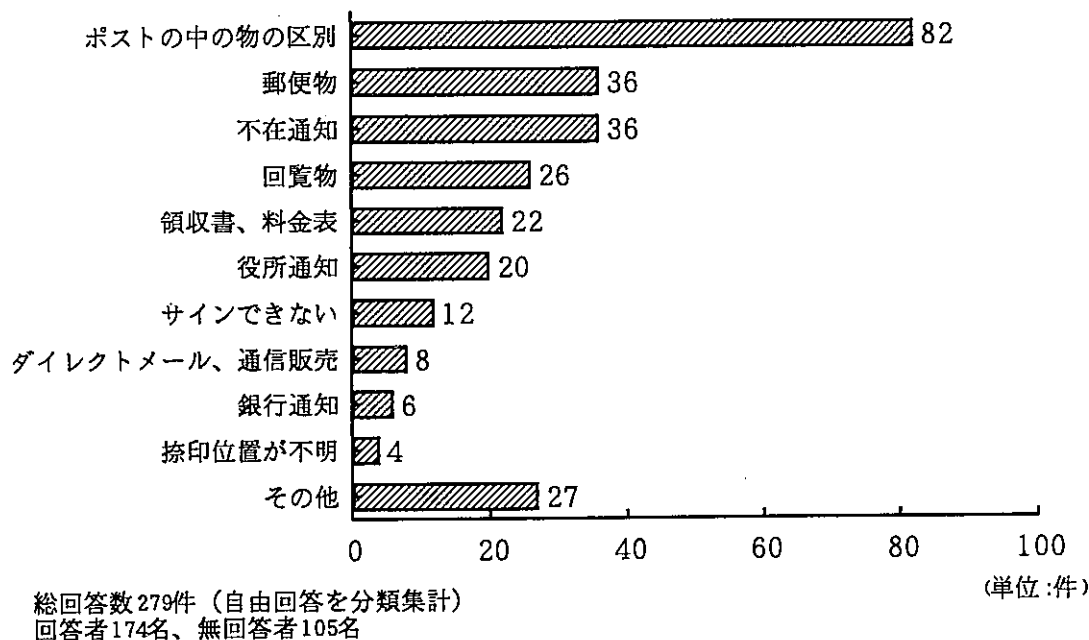
目の不自由な人にとって、同じような形のものは区別が付きません。店内にずらっと並ぶボトルや缶、紙パック飲料。いったいどれがウーロン茶でどれがジュース、また冷凍食品、レトルト食品、缶詰、パック入りの肉、魚なども何かわかりません。また、たくさんの種類があるコショウやドレッシングも好きな物を選ぶのは大変です。このように、食べることの不便さが上位を占めています。これは特に女性が切実に感じており、「箱、袋、パック入り食品」については、女性の約4割がその区別に不便さを感じています。

日用品では、「シャンプー、リンス」が単独の商品としては飛び抜けています。また、「洗剤、仕上げ剤」は、手に触れると荒れてしまう物がなかにはあり、目の代わりとなる手を痛める危険性のある商品です。

ここにあげられているのは区別できない物の一例で、回答の中には「食料品のほとんど」「スーパーのトレイの中」、「コンビニエンスストアの冷蔵庫の中のほとんど」というものもありました。

家庭に配布・配達されるもので確認・対応に 困ること (Q18)

家庭に配布されたり、配達されたりするものの確認や対応で、困ることは何ですか？



目の不自由な人にとって、下記のように、ポストの中のものの区別はほとんどできません。

- ①自分宛に来たものか否かの区別 (郵便物、ダイレクトメール、通販、宅急便など)
- ②急を要するものか否かの区別 (書留、宅急便の不在票など)
- ③返事・返送および連絡を要するものか否かの区別 (書留、宅急便の不在票など)
- ④重要書類か否かの区別 (銀行、役所などからの通知など)

また、いちいち家族の手を煩わせなければ確認できず、非常に困っています。

- ①家族へめんどうをかけること
- ②家族の目に触れたくないものもある

少なくとも、単なる通知とその他のものの区別ができれば、良いと考えています。

- ①ガス料金表、領収書
- ②水道料金表、領収書
- ③電気料金表、領収書
- ④電話料金表、領収書

また、急を要するもの、返事・返送および連絡を要するもの、重要書類などは、その他のものと区別できると良いと望んでいます。特に、

- ①郵便物の不在通知
- ②宅急便の不在通知
- ③銀行からの重要書類
- ④役所からの重要書類

更に、⑤回覧版についても同様です。

配達物の受領印、または、サインの対応については、

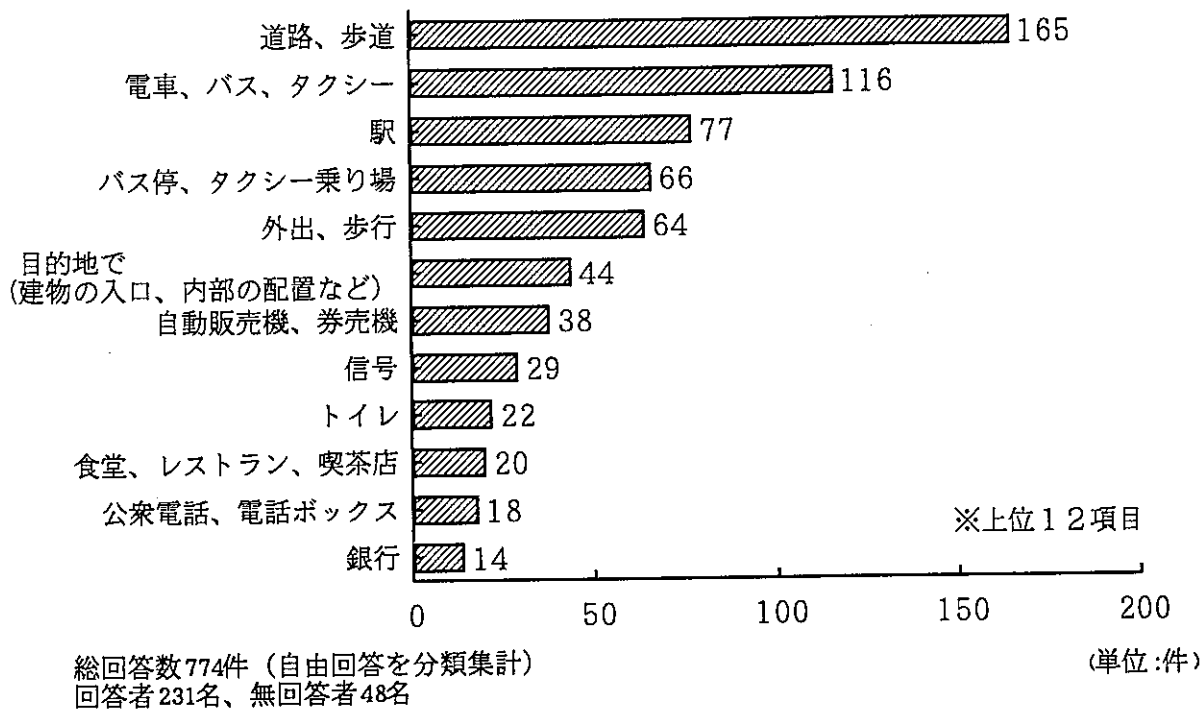
- ①どこに押したらよいか？押す場所がわかりません。
- ②どこにサインしたらよいか？サインする場所がわかりません。

以上のような不便さがあげられました。

家の外の生活

家の外の生活で不便に感じている点 (Q24)

普段、家の外の生活で不便さを感じている点、または、工夫している点を具体的に教えてください。上位5つまで



生活者として外出することは、晴眼者であっても、目の不自由な人であっても不可欠なことです。今回の調査の回答状況をも、複数回答ですが、231名の方から774件もの「家の外で不便を感じる点」があがったことでもわかりました。(無回答者48名) 全体をみると、「道路、歩道」「電車、バス、タクシー」「駅」「バス停、タクシー乗り場」などの場所が高い割合を占めています。

■「道路、歩道」(165件)

家の外で不便を感じる点で最も多く、特に「放置自転車・違法駐車車・電柱・標識・商店の商品が、歩道をふさぎ歩きにくい」と感じている人がかなりいます。また、歩く際の目印になる点字ブロックについても、「敷き方が不統一・ブロックがない」などをあげています。その他として、「車道と歩道の区別」「道路工事の音・車の音」「無謀運転の車・バイク・自転車」についても、「不便・危険」と感じている人がかなりみられます。

■「電車、バス、タクシー」(116件)

外出の際、利用する交通機関に関しても不便さを感じている方も多く、内容的には「空席がわからない」「行き先がわからない(アナウンスが聞き取りにくい)」があがっています。

■「駅」（77件）

同様に、駅についても「場所・方向・位置がわからない」「料金表・時刻表などのすみ字が読めない」などがあがっています。特に、「駅構内の方向指示がない」「電車からホームに降りた時どちらに行っていかわからない」「階段の方向がわからない」などが多くでています。また、「構内放送が減ったこと」も不便な点としてあがっています。

■「バスターミナル、バス停、タクシー乗り場」（66件）

件数では「駅」を下回っていますが、「バス停の位置がわからない」「バス停以外にバスが停まると乗れない」「1つのバス乗り場にいろいろな所へ行くバスが出る場合、わかりにくい」などの不便な点があがっています。

■「銀行」（14件）

件数としては少ない方ですが、銀行でのお金の出し入れの際、「キャッシュディスプレイがつかえない：凹凸がない、タッチセンサーなので」「金額の確認ができない」「カウンターで金額を記入してくれと言われる」などの不便な点があがっています。

■「その他」（58件）

グラフにはのせていませんが、不便な点の「その他」として、「物を置いた時・落とした時の物の位置がわからない」「買物の際の商品選び・物の値段の確認ができない」「公衆電話の操作・カードの残数確認ができない」などがあがっています。

■「工夫している点について」（43件）

「その他」と同様にグラフにのせていませんが、「工夫している点について」みると、不便な点に比べ43件と少ないですが、回答者が工夫している点がかなりみられます。

具体的には、「券売機を利用する際、わかっている金額を入れ、金額の高い右側のボタンから順番に押して、切符が出るまで待つ」「途中のバス停では、来たバスの行き先がわからないので、行き先が確認できる始発のバス停まで歩く」などがあがっており、苦勞している点があらわれています。

Q 24 (男女別)

	男性	女性	計
道路, 歩道	98 (20)	67 (24)	165 (21)
電車, バス, タクシー	64 (13)	52 (18)	116 (15)
駅	41 (8)	36 (13)	77 (10)
バス停, タクシー乗り場	50 (10)	16 (6)	66 (9)
外出, 歩行	43 (9)	21 (7)	64 (8)
目的地で (建物の入口, 内部の配置など)	24 (5)	20 (7)	44 (6)
自動販売機, 券売機	27 (5)	11 (4)	38 (5)
信号	24 (5)	5 (2)	29 (4)
トイレ	13 (3)	9 (3)	22 (3)
食堂, レストラン, 喫茶店	12 (2)	8 (3)	20 (3)
公衆電話, 電話ボックス	13 (3)	5 (2)	18 (2)
銀行	5 (1)	9 (3)	14 (2)
工夫	35 (7)	8 (3)	43 (6)
その他	43 (9)	15 (5)	58 (7)
計	492 (100)	282 (100)	774 (100)
無回答	30	18	48

- ◁・男性、女性とも高率なのは、「道路、歩道」「電車、バス、タクシー」
- ・カウント数では男性の方が多のですが、男女の比率から計算した場合、女性の側が高率なのは、「駅」「電車、バス、タクシー」

数字は件数：()内は各性別の合計を100とした時の%

- ▽・20代が他の年代に比べ高率なのは、「道路、歩道」「食堂、レストラン、喫茶店」
- ・60代が他の年代に比べ高率なのは、「外出、歩行」「工夫」

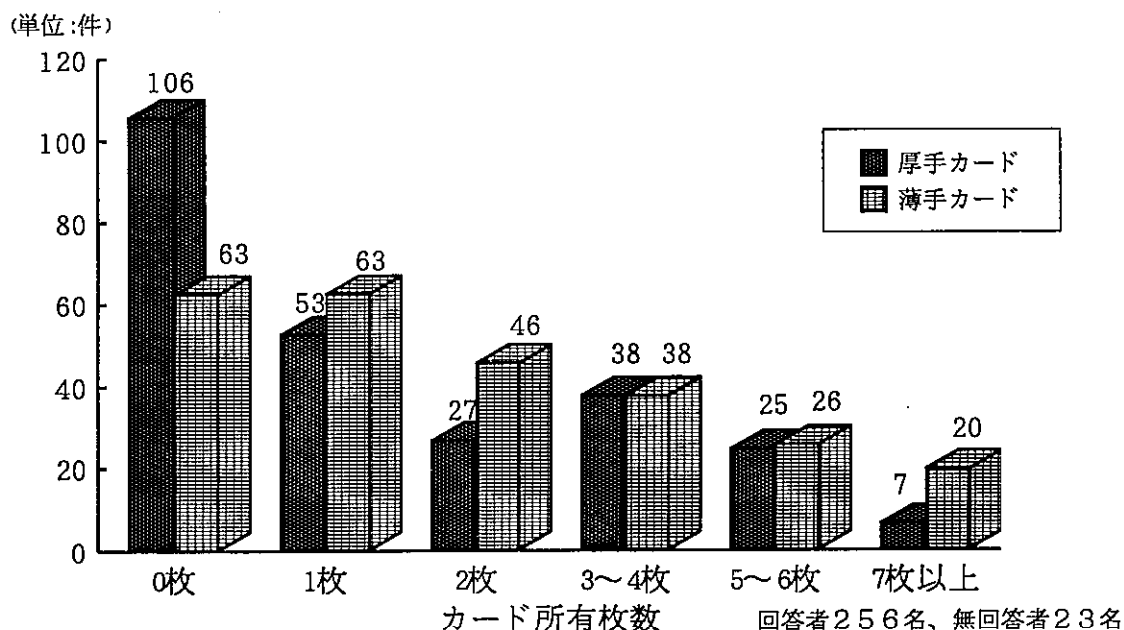
Q 24 (年代別)

	0才～	20才～	30才～	40才～	50才～	60才～	計
道路, 歩道	2 (15)	26 (30)	29 (17)	54 (23)	29 (22)	25 (18)	165 (21)
電車, バス, タクシー	1 (8)	14 (16)	27 (16)	32 (14)	18 (14)	24 (18)	116 (15)
駅	3 (23)	7 (8)	17 (10)	26 (11)	15 (12)	9 (7)	77 (10)
バス停, タクシー乗り場	0 (0)	0 (0)	17 (10)	23 (10)	14 (11)	12 (9)	66 (9)
外出, 歩行	1 (8)	6 (7)	15 (9)	11 (5)	9 (7)	22 (16)	64 (8)
目的地で (建物の入口, 内部の配置など)	0 (0)	6 (7)	9 (5)	19 (8)	8 (6)	2 (1)	44 (6)
自動販売機, 券売機	0 (0)	6 (7)	7 (4)	12 (5)	8 (6)	5 (4)	38 (5)
信号	3 (23)	1 (1)	6 (4)	6 (3)	6 (5)	7 (5)	29 (4)
トイレ	0 (0)	3 (3)	9 (5)	8 (3)	1 (1)	1 (1)	22 (3)
食堂, レストラン, 喫茶店	0 (0)	6 (7)	8 (5)	4 (2)	1 (1)	1 (1)	20 (3)
公衆電話, 電話ボックス	0 (0)	0 (0)	6 (4)	8 (3)	2 (2)	2 (1)	18 (2)
銀行	1 (8)	5 (6)	4 (2)	4 (2)	0 (0)	0 (0)	14 (2)
工夫	0 (0)	2 (2)	10 (6)	10 (4)	5 (4)	16 (12)	43 (6)
その他	2 (15)	6 (7)	6 (4)	20 (8)	13 (10)	11 (8)	58 (7)
計	13 (100)	88 (100)	170 (100)	237 (100)	129 (100)	137 (100)	774 (100)
無回答	1	1	3	12	13	18	48

数字は件数：()内は各年代別の合計を100とした時の%

カード所有枚数 (Q25)

銀行カードやプリペイドカードなどいろいろなカードが使われていますが、カードは大きく2種類に分けられます。ア) 厚手で凹凸のあるカード（キャッシュカード・クレジットカードなど）と、イ) 薄手で平らなカード（オレンジカード・テレホンカードなど）です。あなたはそれぞれ何枚くらいのカードを持っていますか？



キャッシュカード、クレジットカードなどの厚手のカード、および、テレホンカード、オレンジカードなどの薄手のカードそれぞれの所有枚数をたずねました。

キャッシュカード、クレジットカード（厚手のカード）は、回答者（256名）のうち150人（59%）が持っていました。所有枚数をみると、1枚の人が53件と最も多く、次いで3~4枚の38件が続いています。

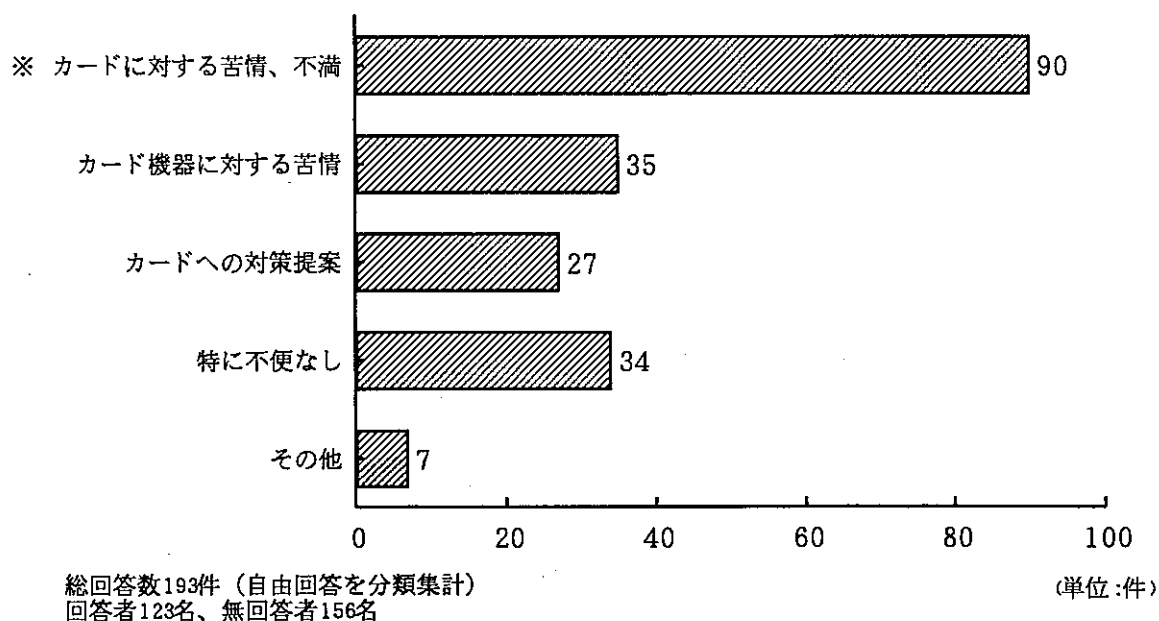
オレンジカード、テレホンカードなどのプリペイドカード（薄手のカード）は、回答者のうち193人（75%）が所有していました。所有枚数をみると、1枚の人が63件と最も多く、次いで2枚の46件、3~4枚の38件が続いています。

このデータを見ると、「厚手」「薄手」のカードとも目の不自由な人に広く普及していることがわかります。

カードを使う上で困っている点 (Q26)

カードの区別やカードを使う上で困っている事がありますか？

図-1



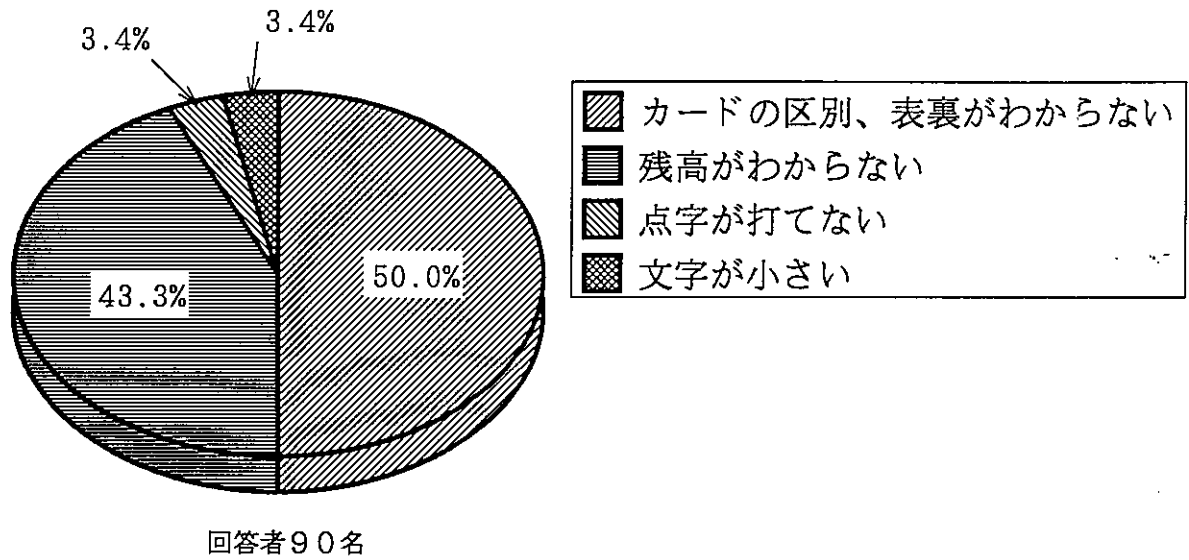
プリペイドカード、キャッシュカードなどを使う上で困っている点を自由回答で答えてもらいました。

回答を大まかに分けると、図-1の様になります。カード本体についての苦情、不満の詳細は図-2の通りです。カードの区別、表裏の区別がつかないと、残高がわからないとの問題でほとんどが占められています。何らかの対策が必要と思われます。カードを取り扱う機械に対する苦情、不満、では機械操作の複雑さ、タッチ式ディスプレイが使えない、音声の案内が少ない、挿入口が解らないなどの問題が指摘されました。「特に不便はない」という回答は、総回答件数193件中34件と意外に多くありましたが、それぞれの生活の中で各種の工夫(所持枚数を制限する、カードを入れる場所を変える、袋に点字を貼る等)をしている結果と考えられます。

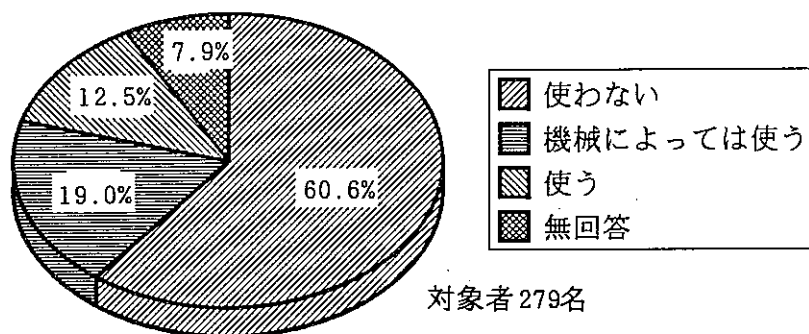
その他の問題としては、クレジットカード使用時にサインを求められる事への不満が目につきました。今回調査の回答の中にはありませんでしたが、プリペイドカードで買い物をした際に、返却されたカードが自分の物かどうか確認のしようがない、自販機に入れたカードが戻ってくる事があるが、戻った理由が理解できない(カードの入れる方向、表裏を間違えたか、残高が足りないのか、違ったカードを入れてしまったか)などの問題点もあがっています。

※ カードに対する苦情、不満の内容 (Q26)

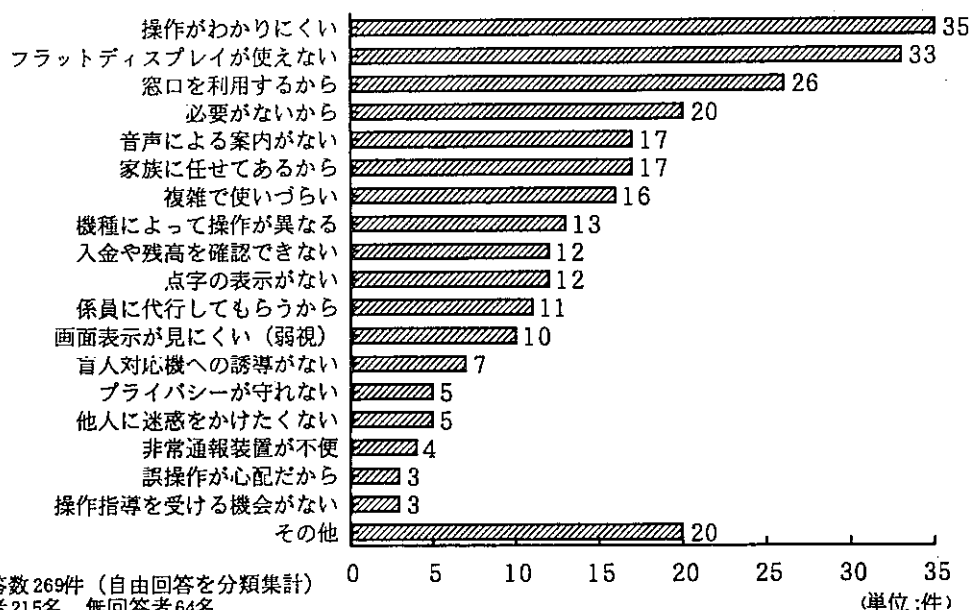
図-2



金融機関でCD（現金自動支払機）、ATM（現金自動預け払い機）を使いますか。(Q27)



また、その使いにくい理由をお書き下さい。(Q28)



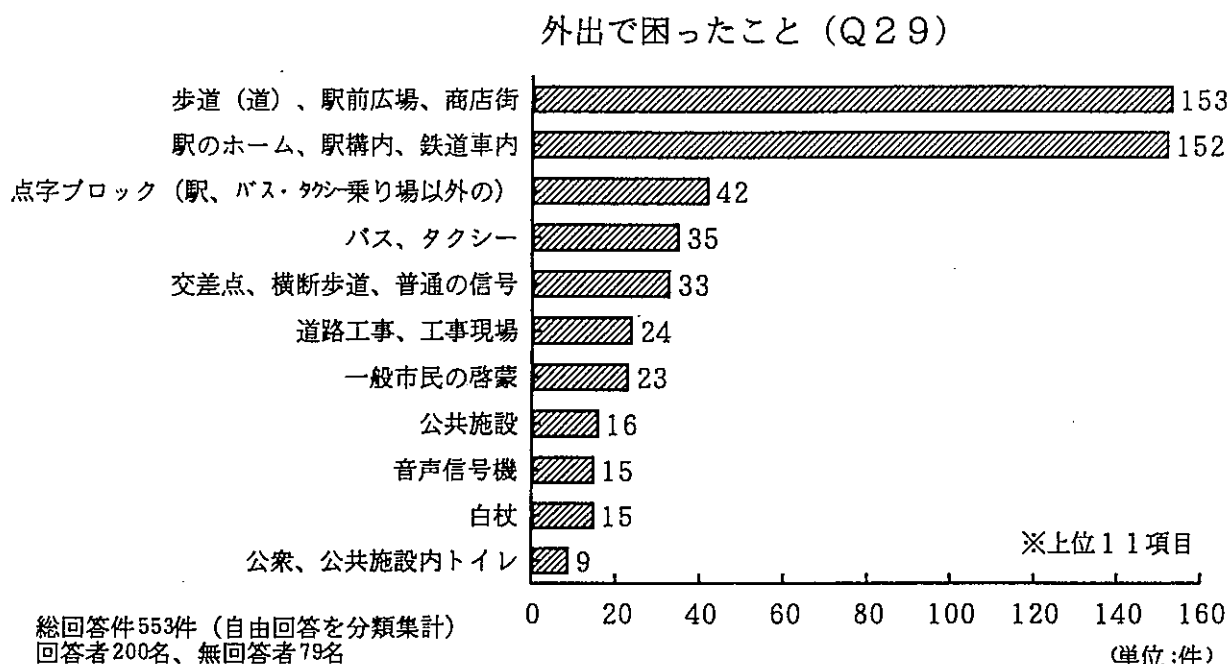
CD・ATMは『使わない』という回答が全体の60.6%を占めており、次いで『機械によっては使う』が19.0%、『使う』が12.5%となっています。

それらの主な理由としては、凹凸のない圧力センサー式のディスプレイスイッチは全く利用できないことや、銀行や機種によって操作パネルのレイアウトが異なっているといった操作性に関する不便さがあげられています。その結果としてキャッシュカードの使用をあきらめ、窓口を利用せざるを得ないのが現状のようです。また、点字や音声による確認手段の充実を切望する声も多く見られました。

なお、家族や銀行の係員に任せているのであまり必要がないという回答も目立ちましたが、できることならお金の管理ぐらいは自分でしたいというのが本音のようです。

外出で困ったこと (Q29)

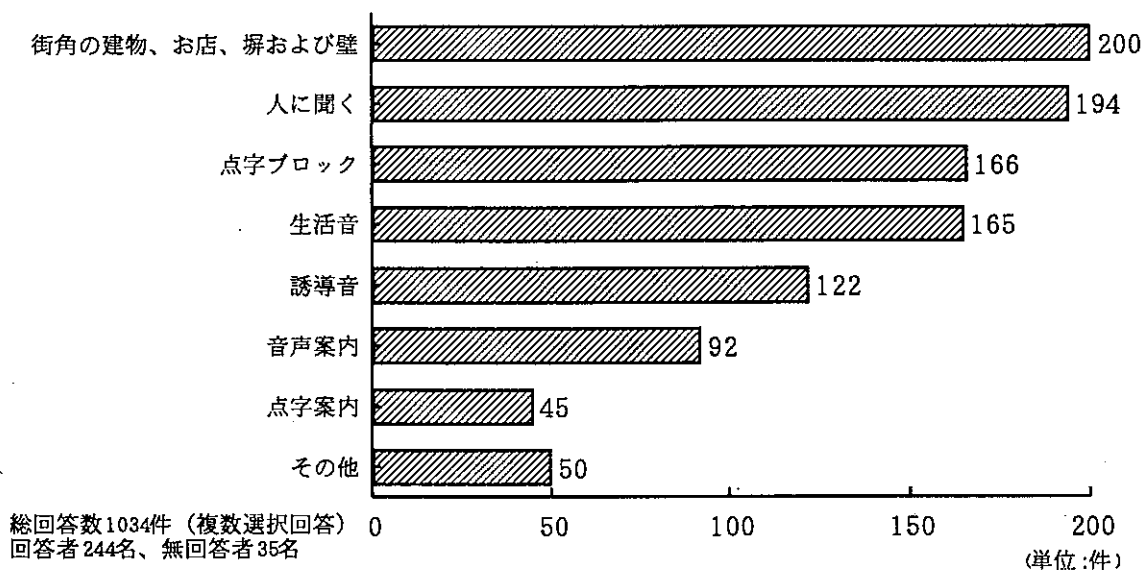
お一人で外出する際、今までの体験で、
困ったことを記入してください。



目の不自由な人が外出する時は、行き先への順路、場所等を事前に勉強してから出掛けるのが普通です。にもかかわらず、一端外にできれば、数多くの困難がある事が回答から理解できます。特に駅前や駅に至る商店街、道路等の人込みで、多くの障害に遭遇しています。同様に、交通の結節点(他の交通機関に乗り換える所)、駅構内、ホーム、車両内でも、多くの障害に遭遇しています。次に歩行と関連して、点字ブロック、信号機が挙げられます。地域、場所によっては数多く設置、普及しているにもかかわらず、設置状態の不備があると考えられます。また、回答は多くはないのですが、道路工事、工事現場の状況に気がつかず事故に巻き込まれたり、危険な目に会っています。大怪我にもなりますので早急の改善が望まれます。

一人で外出する際、手がかりにするもの (Q30)

一人で外出する際、手がかりにするものは何ですか？



目の不自由な人は、外出する時、太陽の位置や匂い、風や水の流れなどを含めて、手がかりになる情報は、積極的に何でも取り入れていることが理解できます。手がかりの半分は、聴覚で捕らえられる物、残りの半分は触覚で捕らえられるものです。

回答者の多くが、点字を使用しているにもかかわらず、点字案内をあまり利用していません。その理由としては、点字案内の絶対数が少ない、案内板があっても位置がわからないなどが考えられます。

外出の際、改善して欲しいこと (Q31)

a) 公衆、公共施設内トイレ

- ・トイレの中にも点字ブロックがあれば良い 7件
- ・男性用、女性用がわかるように 5件
- ・トイレの場所を示す方法があれば良い 4件
- ・トイレの使用方法的改善、誘導、規格統一をしてほしい 3件

※上位4項目

c) 駅（鉄道、地下鉄）のホーム、駅構内、鉄道車内

- ・音声等で情報がほしい 8件
- ・点字案内の設置 7件
- ・改札の位置を知らせる 5件
- ・ホームの階段、駅の出入り口の方向を知らせる 4件

※上位4項目

d) バス、タクシー

- ・バス停、タクシー乗り場に点字ブロックがほしい 4件
- ・バスの行き先を教えてください 3件

※上位2項目

f) 点字ブロック（駅、バス、タクシー乗り場、トイレを除く）

- ・点字ブロックを敷いてほしい 8件
- ・点字ブロックの規格、施行方法の統一をしてほしい 7件
- ・点字ブロック上の、駐車、駐輪、障害物をなくしてほしい 6件
- ・点字ブロックは方向、意味のわかるものにしてほしい 5件
- ・点字ブロックの危険性を改善してほしい 3件
- ・点字ブロックのメンテナンスをしっかりとってほしい 3件

※上位6項目

e) 歩道（道路）、駅前広場、商店街

- ・お店の前の商品と看板は歩道に出さないでほしい 10件
- ・駐車、駐輪をやめてほしい 5件
- ・白線を目立つ（視・触覚的）ようにしてほしい 3件
- ・点字ブロックを敷いてほしい 2件

※上位4項目

b) 音声信号機

- ・音声信号が欲しい 10件
- ・夜間も信号の音を切らないでほしい 4件
- ・信号の音を大きくして、方向がわかるように 2件

※上位3項目

g) 点字案内

- ・点字案内の所在がわかるようにしてほしい 5件
- ・点字案内を増やしてほしい 3件

h) 公共施設

- ・音声案内、誘導音をつけてほしい 4件
- ・階段や入り口のドア、建物等の色や、名称表示が目立つように 4件
- ・公共施設に点字ブロックがほしい 4件
- ・点字表示がほしい 3件

※上位4項目

k) 音（誘導音、音声案内、その他の音）

- ・音声案内、誘導音を増やしてほしい 9件

i) その他

- ・人に聞くのが一番よいので、親切に対応してほしい 7件
- ・困っていることも多いので、声をかけてくれると有り難い 4件
- ・工事の安全対策や情報を整備してほしい 3件
- ・自動車は曲がるとき、音の出る指示機をつけてほしい 2件
- ・盲人をもっと理解してほしい 2件

※上位5項目

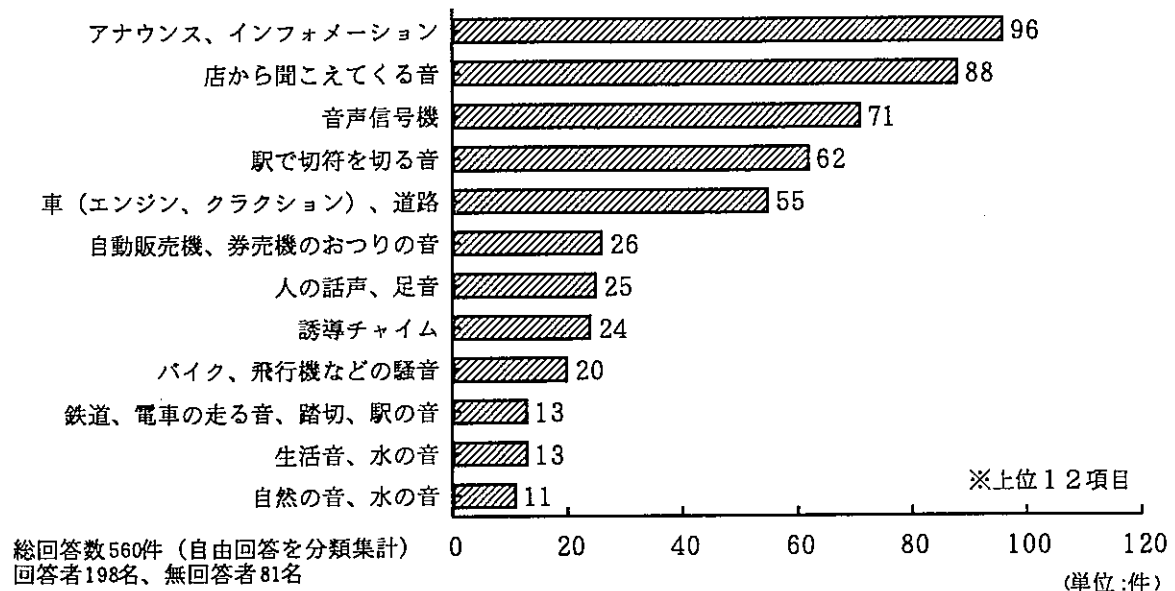
*本回答には不便さと、改善してほしいことが混在していたため、改善してほしいことのみを抽出しました。（総回答数320件）

《外出の際の改善してほしいことに関して》

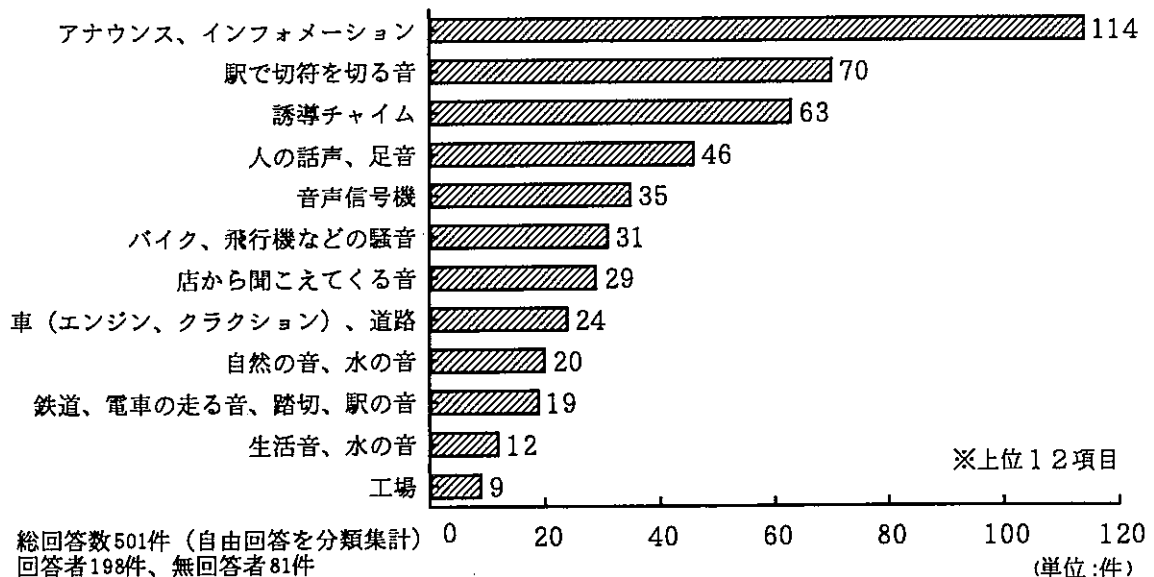
改善を希望する事項では、1) 目的対象物の位置、場所案内が圧倒的に挙げられます。例えば、トイレと男女別、駅構内でのホームと階段の位置、改札口の位置、バス停の位置、公共施設の入り口、ドア等です。2) 点字ブロックその物、設置方法の改善、設置数の普及が挙げられます。例えば、規格（大きさ、色、素材）と施工方法の統一、維持管理です。例えば、誘導音、音声信号機の設置数の普及と音声、音量、時間帯の改良、同様に点字案内も挙げられます。最後に、モラルの問題として、歩道上の障害物（看板、駐輪、駐車）をなくした歩きやすい環境が望まれます。

音・音声で役立っている点、不便な点 (Q32)

外出の際、どのような音や音声役が役立っていますか



どのような音が無くなって困っていますか



回答は駅の案内に対して集中しています。役立っている音として、電車の到着や停車駅などを知らせる構内・車内放送、改札口の位置を知る手がかりとなるハサミの音を挙げています。

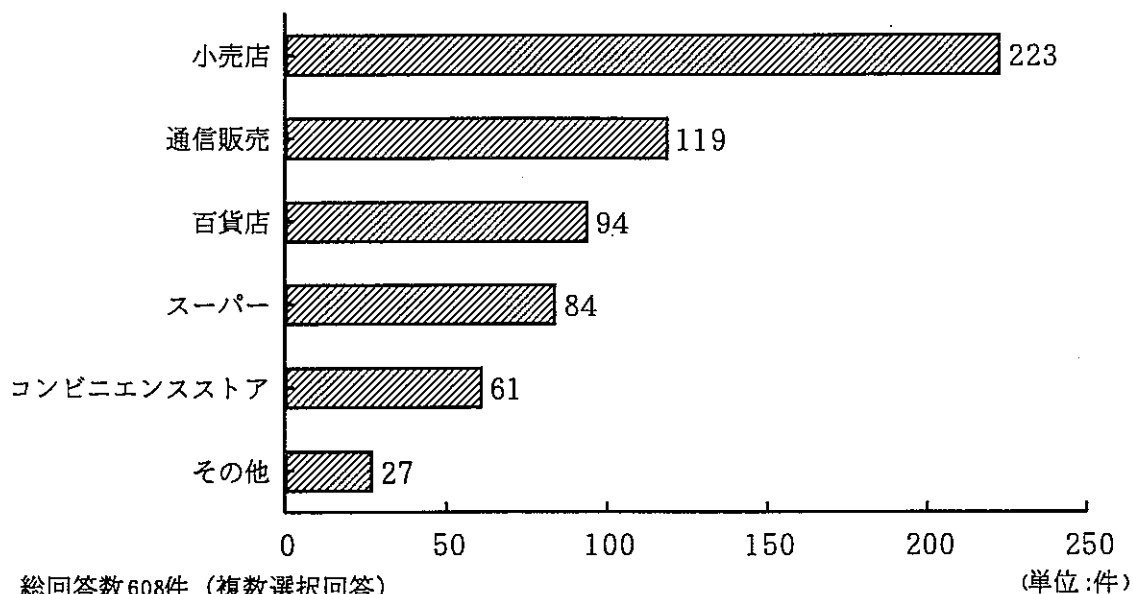
逆に不便な点として、自動改札が普及し、ハサミの音で出入口を探しにくくなったことや、ホームや車内の静音化により、電車の到着や停車駅などがわかりにくくなったことを指摘しています。

音声で青信号を知らせる信号機についても、横断歩道の方がわかりにくい、メロディーが統一されていない、押しボタンの位置がわかりにくい、夜間は中止されるといった不便さを挙げています。

商品の購入

利用しやすいお店、その理由 (Q2~3)

あなたが利用しやすいお店はどこですか？



アンケート結果では、利用しやすいお店の一位は小売店で、これに通信販売、百貨店、スーパー、コンビニエンスストアと続いています。利用しやすい理由として、小売店は店の人が買い物を手伝ってもらうことが可能であるからです。具体的には、商品や値段についての説明を聞けたり、新製品の情報を教えてもらえるからです。これは、小売店の場合、比較的家の近くであり、店の人と顔馴染みになり、気軽に相談できるからです。

通信販売の場合は、ラジオ、テープ、TV等の種々のメディアからの確かな商品情報を得ることが出来ます。また、欲しい商品が電話一本で確実に手元に届くといった便利な点が理由として考えられます。

百貨店やスーパーの場合は品数が豊富で一ヶ所で間に合うといった理由や、比較検討ができ選べるといった理由もあります。また、百貨店の場合、商品をゆっくり選べることや、ショッピングの楽しさが味わえるといった、買い物が楽しめるということも、割合は少ないながら重要な意見といえます。

コンビニエンスストアは時間に制限がなく何時でも開いているから、急の場合に便利であるという理由です。

利用しやすいお店の理由 (Q3)

小売店の場合

(総回答数239件)

・説明を聞ける、受けられる。	46件	・買いやすい。	3件
・手伝ってもらえる。	46件	・品物を確実に選べる。	2件
・信頼関係がわき、コミュニケーションが取れる。	23件	・店の人がかならずいる。	2件
・顔馴染みになれる。	22件	・下ごしらえをしてくれる。	2件
・店の人が直接品物を取って、探してくれる。	18件	・品数が豊富である。	1件
・店の人の態度、対応が親切、丁寧である。	11件	・アフターケアが良い。	1件
・電話注文可能で自宅に届けてくれる。	11件	・遅くまで開いている。	1件
・家の近くにある。	9件	・少量でも買える。	1件
・頼みやすい、声をかけやすい。	8件	・品物が新鮮である。	1件
・情報を得やすい。	8件	・金銭のやりとりがしやすい。	1件
・店が小さくて(狭くて)良い。	8件	・かわいいお店がいっぱいある。	1件
・気楽に買い物ができる。	5件	・セルフサービスではない。	1件
・慣れている。	4件	・その他	3件

通信販売の場合

(総回答数113件)

・説明的確(ラジオ、カガ、テープ、CM)	26件	・いろいろなサービス(テープ、点字)が受けられる。	3件
・宅配してくれる。	23件	・安い。	2件
・電話で用が済む。	16件	・返品しやすい。	2件
・手間がかからず、楽に買い物ができる。	11件	・新製品の情報がわかる。	2件
・考え、選べる。	9件	・楽しめる。	1件
・質問できる。	7件	・特典がある。	1件
・信用がある。	3件	・視覚障害者のための商品が通版しかない。	1件
・珍しい物が買える。	3件	・その他	3件

百貨店の場合

(総回答数99件)

・品数豊富で用が足りる。	20件	・品質が良い。	3件
・説明を聞ける、受けれる。	19件	・ゆっくり選べる。	3件
・ガイド、サービス、相談が受けやすい。	18件	・配達可能。	2件
・店の人の態度、対応親切。	9件	・ショッピングの楽しさが味わえる。	2件
・信用、信頼できる。	5件	・比較検討ができる。	1件
・買いやすい。	5件	・お店がすいている。	1件
・コミュニケーション取りやすい。	4件	・安い。	1件
・ガイドがある。	4件	・その他	2件

スーパーの場合

(総回答数80件)

・一ヶ所で間に合う。	12件	・慣れている。	3件
・手に取って触れる。	12件	・比較、選択できる。	2件
・店の人が手伝ってくれる。	11件	・買わなくても見れる。	1件
・近くにある。	9件	・店内狭く、出入口少ないので安心。	1件
・品数多い。	6件	・通路広く、商品配列一定。	1件
・安い。	5件	・まとめてお金が払える。	1件
・煩わしさが無い。	4件	・お店がすいている。	1件
・誰かと一緒の時利用する。	3件	・テープ、テレビ等で商品の内容がわかる。	1件
・一人で買いに行ける。	3件	・その他	1件
・便利	3件		

コンビニエンスストアの場合

(総回答数62件)

・店の人の対応が良い。	15件	・専門知識がある。	1件
・店内のレイアウトがわかりやすい。	13件	・店の人を探しやすい。	1件
・便利、利用しやすい。	11件	・新鮮	1件
・いつでも利用可能。	6件	・菓子類が多い。	1件
・何でもそろろう。	5件	・気を使わない。	1件
・ゆっくり選べる。	4件	・その他	3件

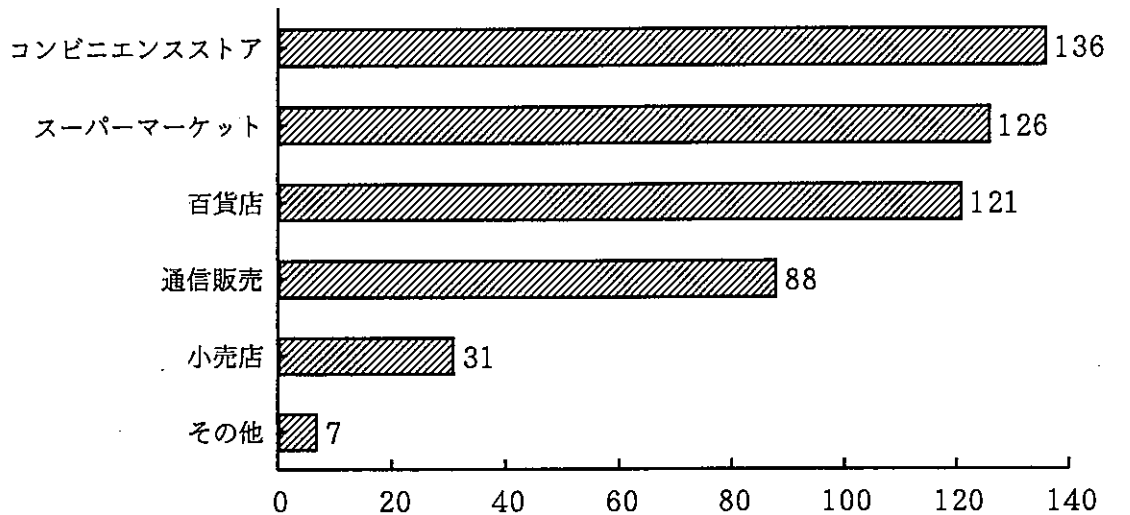
その他

(総回答数28件)

・訪問、移動、露店販売	9件
・生協	5件
・ラジオショッピング	3件
・専門店	3件
・電話ショッピング	2件
・点字図書館、点字毎日	2件
・ディスカウントショップ	1件
・その他	3件

利用しにくいお店、その理由 (Q4~5)

利用しにくいお店はどこですか？



総回答数509件（複数選択回答）
回答者246名、無回答者33名

(単位:件)

アンケート結果では、利用しにくいお店の一位は、コンビニエンスストアで、次にスーパー、百貨店がほぼ同じ順位、その後通信販売、小売店と続きます。利用しにくい理由として、商品の置いてある場所、商品の中身、値段がわかりにくく、相談したくても店の人が少ないので買い物の援助や案内が頼みにくいといったことを挙げています。

スーパーや百貨店の場合は、売り場が広すぎてやはりどこに何があるのかわかりにくいといった理由が考えられます。また、売り場や商品の位置が頻繁に変わり、認識できないといった売り場のレイアウトの問題が考えられます。

通信販売では商品の内容やイメージがつかみにくいのと、点字での情報が少ないといった理由です。

小売店の場合は、店に入ったら買わざるを得ない雰囲気があり、店の人がそばについていて自由にゆっくり選べないといった理由があります。また、割合は少ないが、人間関係について、人間関係が悪くなると困るといった理由もあります。これは、親しくなるとよく面倒をみてもらえ買い物の援助を受けられるが、その反面、人間関係に気を使うといったことなのでしょう。

全体的には、視覚障害者に対する誘導のシステムがまだまだ整っていないと言えそうです。

利用しにくいお店の理由 (Q5)

コンビニエンスストアの場合

(総回答数169件)

・商品の場所、価格等がわかりにくい。	33件	・視覚障害者への対応がない。	4件
・店員が少なく、買い物しにくい。	27件	・店員に商品知識がない。	4件
・店員に頼みにくい、探せない。	14件	・売り場、店内狭い。	3件
・質問しにくい、説明してもらえない。	11件	・品数多すぎる。	1件
・一人で選べない。	10件	・自分で選ばないと買えない。	1件
・店員の対応が不親切。	8件	・商品に信用できない。	1件
・セルフサービスなので困る。	7件	・入りにくい。	1件
・値段がわからない。	7件	・場所的に車が多く危険。	1件
・売り場、店内広すぎて利用しにくい。	5件	・野菜、果物、魚がない。	1件
・売り場、店内わかりにくい。	4件	・商品情報が入りにくい。	1件
・値段が高い。	4件	・電話による注文、配達が困難。	1件
・近くにない。	4件	・ぶつかるのが迷惑。	1件
・品数少ない。	4件	・その他	7件
・品物の鮮度が問題。	4件		

スーパーの場合

(総回答数177件)

・商品、売り場、中身がわからない。	41件	・視覚障害者に対する配慮に欠けている。	2件
・一人で困難。	19件	・自分で見て選ばないと買えない。	2件
・店員少なく手助け受けにくい。	19件	・全てがわからない。	2件
・広すぎてわかりにくい。	16件	・袋に入れるカウンターがわからない。	2件
・値段がわからない。	12件	・品物を入れるカゴがわからない。	2件
・セルフサービスのため困難。	8件	・店員に頼むのが面倒くさい。	1件
・店員を見つけにくい、探しにくい。	8件	・価格のチェックができない。	1件
・店員に頼みにくい、手助け受けにくい。	7件	・ゆっくり買い物ができない。	1件
・店員の態度不親切。	6件	・触れると崩れやすかったり傷んだりする。	1件
・混雑して危ない。	4件	・電話による注文、配達が困難。	1件
・品質、鮮度がわからない。	4件	・人の動き、商品の積み方が怖い。	1件
・商品の位置がよく変わる。	3件	・時間によってレジが閉まっている。	1件
・レジの位置がわからない。	3件	・顔見知りになるには毎日行かねばならない。	1件
・忙しいと、手助け受けられない。	3件	・商品情報が得にくい。	1件
・店員がいないことがある。	2件	・その他	3件

百貨店の場合

(総回答数150件)

・どこに何があるかわからない。	43件	・品物を触れない。	3件
・広すぎてわからない。	34件	・物多く選ぶのが難しい。	3件
・店員に頼みにくい、聞きにくい、探しにくい。	17件	・買わないと悪い。	2件
・店員少なく見てもらえない。	10件	・買いにくい。	1件
・行くのに不便。	7件	・特定の店員に慣れるのに時間がかかる。	1件
・混雑して迷う。	6件	・電話による商品の注文、配達が困難。	1件
・店員の態度、愛想が悪い。	6件	・照明暗く品物の色がわかりにくい。	1件
・一人で行けない、選べない。	4件	・視覚障害者の誘導が完備されていない。	1件
・店員がいるとゆっくり見れない、さわれない。	4件	・災害(火災)時に危険。	1件
・値段が高い。	3件	・その他	2件

通信販売の場合

(総回答数84件)

・商品の内容がわからない。	35件	・返品が困難。	2件
・カタログ、本が読めない。	15件	・届くまでに時間がかかる。	1件
・手続き面倒。	8件	・値段が高い。	1件
・情報を得にくい。(点字が少ない)	7件	・システムがわからない。	1件
・信頼性に欠ける。	6件	・1対1ではない。	1件
・イメージと実物が違う。	2件	・その他	3件
・苦情を連絡しにくい。	2件		

小売店の場合

(総回答数39件)

・買わざるをえない。(雰囲気)	7件	・不親切。	2件
・自由に納得いくまで選べない。	6件	・視覚障害者への配慮に欠けている。	2件
・品物が古い。	4件	・値段が高い。	1件
・人手がない。	3件	・人間関係が難しい。	1件
・強引に売りつけられる。	3件	・店内が乱雑。	1件
・商品の場所、値段がわからない。	3件	・店内が小さい。	1件
・悪い商品を売りつけられる。	2件	・その他	3件

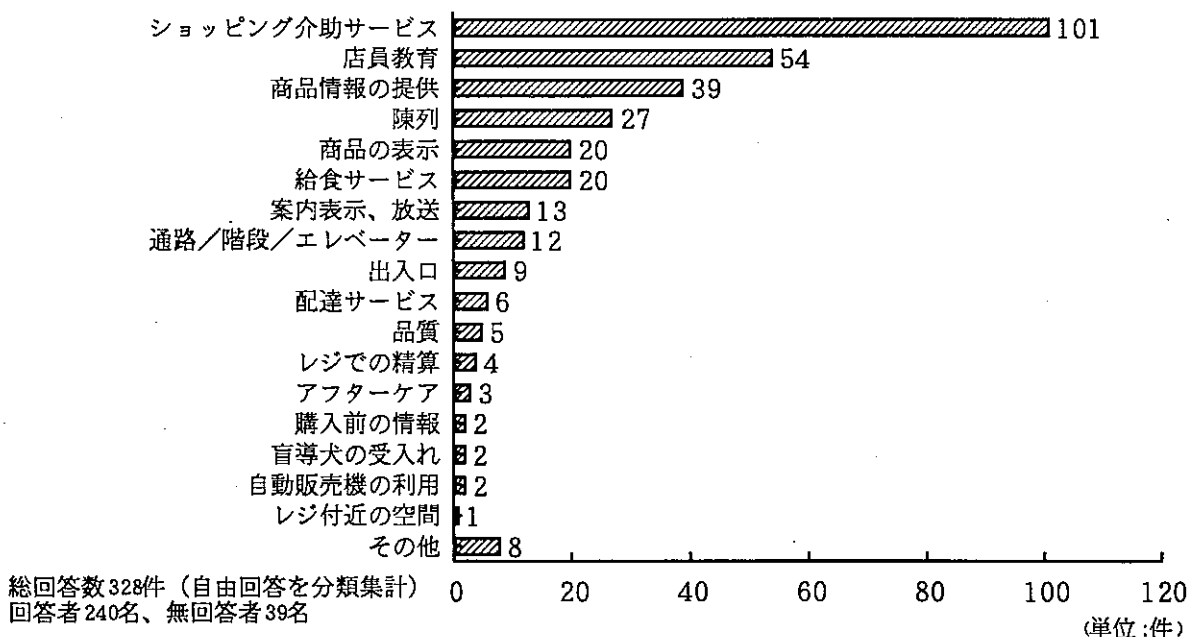
その他

(総回答数9件)

・セルフサービスの店(店員のサービス受けられない。)	2件
・自動販売機はどのボタンを押すのかわからない。	1件
・ファミリーレストランは早く注文にきすぎる	1件
・ガイドシステムが少ない。(書店)	1件
・盲導犬を嫌う。	1件
・専門店が集まっている店(お金が払いきにくい。)	1件
・その他	2件

買物をする際、お店に望むこと (Q6)

あなたの立場から、買い物をする際にお店に対して望む事は何ですか？



最も要望が高いのは、スーパーやデパートなどのショッピング介助サービスです。具体的には、売り場までの誘導、商品の説明、内容の確認と判断に必要な情報の提供などをしてくれる店員の配置を制度化してほしいということです。

第2には、店員教育です。視覚障害者への応対として、声をかける、ほしい商品の売り場まで案内する、希望の商品を的確に渡す、押しつけ販売をしないといったことを求めています。

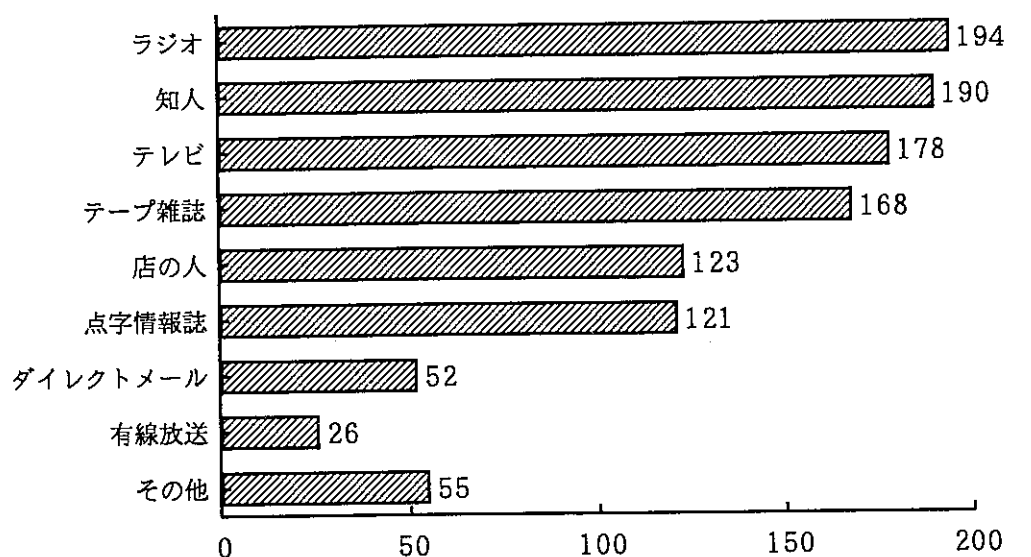
第3には、点字表示や館内放送などで、十分な商品情報を提供してほしいということです。例えば、商品の種類、機能、耐久性、値段、賞味期間、おすすめ商品、買い得商品、色などがわかるようにしてほしいという声です。

その他、陳列をたびたび変えないでほしい、崩れやすい積み方をしないでほしい、レジで一つ一つの値段を言い、おつりは手に返してほしいといった声が挙がっています。

商品情報の入手

買いたい商品の情報をどこから得ていますか (Q7)

買いたい商品の商品情報を主にどこから得ていますか？



総回答数1107件 (複数選択回答)
回答者270名、無回答者9名

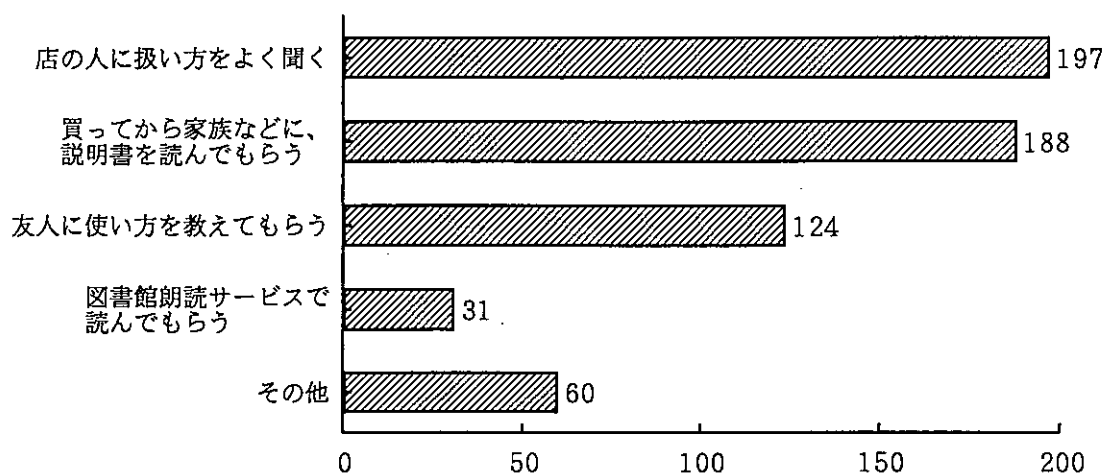
(単位:件)

買いたい商品の情報を得るのは、ラジオ、テレビ、テープ、雑誌、ダイレクトメールの種々のメディアや友人、ボランティア、家族からです。また、直接店に出かけて情報を得ている人も多いです。新聞や雑誌では、ボランティアやホームヘルパーに音読してもらうことが多いようです。点訳された新聞や雑誌、カタログやテープ情報がまだまだ少ないと考えられます。

最近の傾向として、パソコン通信やファクシミリサービスを通じて情報を得ているという人も多く、今後ますますパソコン通信等の種々のソフトを利用して、データベースから多くの情報を得る人が増えるでしょう。

商品の取り扱いがよくわからないときは (Q8)

商品の取扱いがよく判らないときは、どのようにされますか？



総回答数600件 (複数選択回答)
回答者269名、無回答者10名

(単位:件)

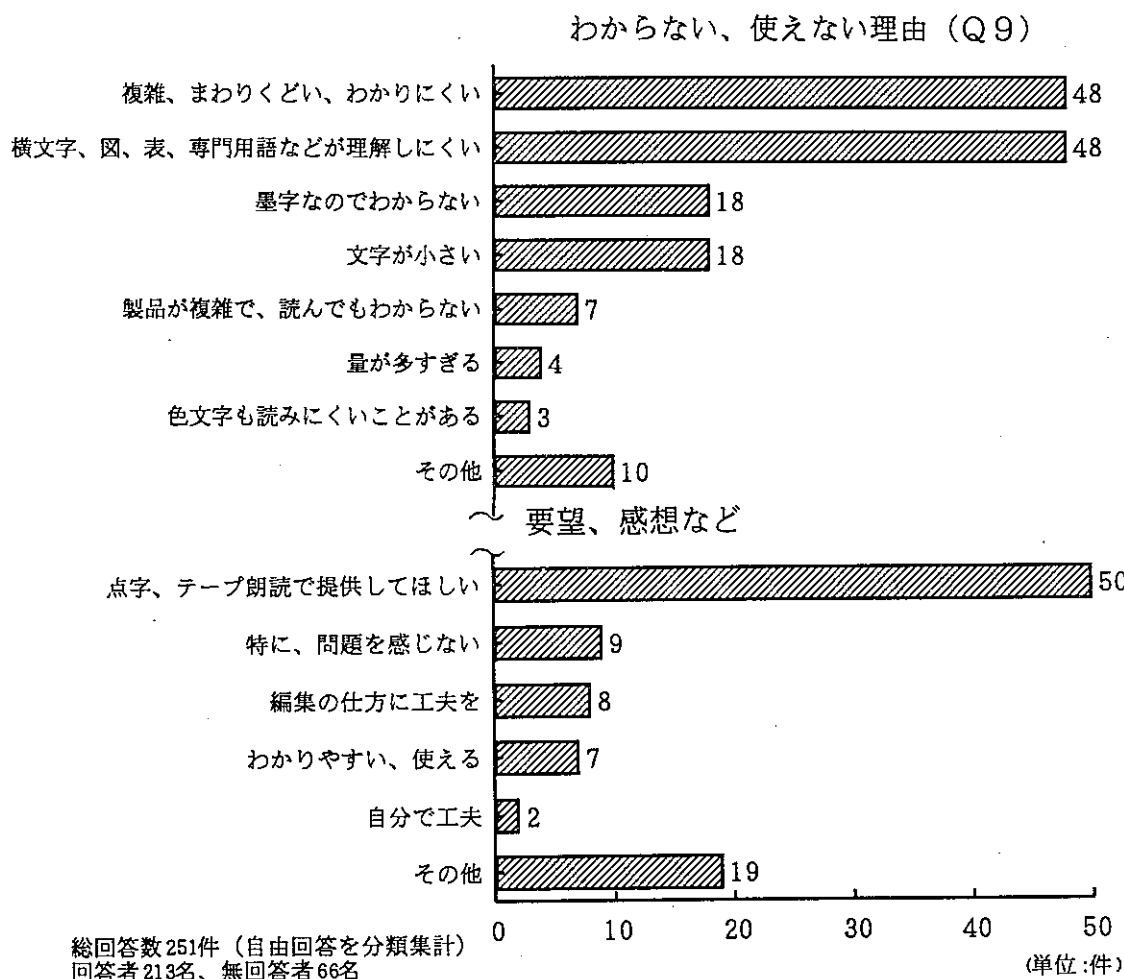
[その他の内訳] (その他と回答した人の自由回答を分類)

わからないまま、とにかく使ってみる	17 [件]
メーカー/ボランティア/ヘルパーに聞く	15
点訳する/してもらう	13
ヘルパーさんなどに読んでもらう	9
テープに録音する/してもらう	7
取扱い説明書が不十分	4

- ・商品を購入したとき「店の人に扱い方をよく聞く」のは、当然で最も確実な方法ですが、一度説明を受けただけで全てを習得出来るわけではありません。
- ・買った後、家族や友人など「身近な人」の支援によって理解を深めている場合が多いようです。
- ・図書館や地元のボランティアによる朗読や点訳サービスの利用も便利ですが、全体の約1割程度にとどまっています。
- ・適当に動かしてみて、使い方を少しずつ覚えていくという試行錯誤型の対処をしている人も多いです。

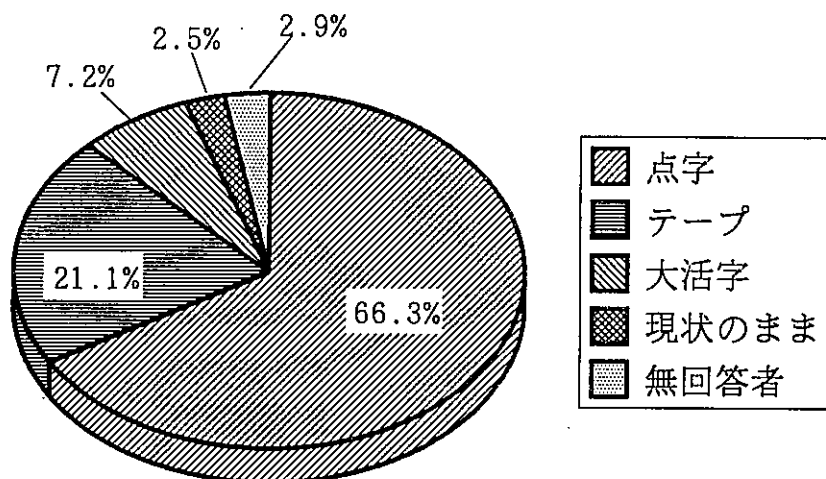
現状の取り扱い説明書について (Q9)

現状の取扱い説明書についての感想をお聞かせください。



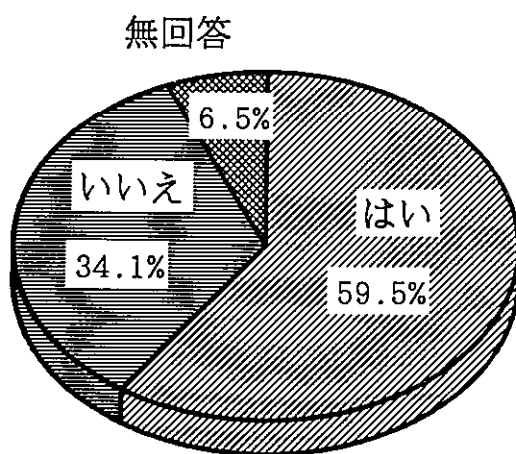
現状の取扱い説明書についての感想では、点字の説明書や説明を録音してあるテープの提供を望む声、説明書の文章の書き方、表現が複雑でまわりくどくわかりにくいといった声、また説明書の中にカタカナ、横文字、図、表、専門用語、記号、写真、絵が多く、視覚障害者には理解できないといった声が全体の約半数を占めました。このことは、視覚障害者にかかわらず高齢者や子供、その分野について専門知識のない利用者にとっても同様のことがいえます。特に電気製品等(TV、ビデオ、オーディオ機器、エアコン、その他家庭用品……)日常生活に欠かせない物で、危険を伴う物に関してはわかりやすい的確な説明を点字やテープで提供できるシステムを確立すべきです。

どの説明書を選びますか (Q10)



対象者279名

説明書が有料になっても仕方がないと思いませんか (Q11)



対象者279名

点字の説明書を希望する人が全体の66.3%と、音声テープの希望者(21.1%)よりもかなり上回っています。ただし、アンケートの回答者の約70%が点字を読める人なので、点字の要望が多いと思われます。

大活字(7.2%)は、弱視者の要望です。

「説明書が有料になっても仕方がない」と思う人が半数以上の59.5%を占めています。

日常生活の工夫・要望

日常生活で工夫している事・工夫している物

(Q19)

(1) 不便を感じている主な物・事

a 家の中の物			
・物(限定なし) 55件	・靴下 25件	・刷牙の器 16件	・歯ブラシ 11件
・靴 32件	・洋服 26件	・化粧品 12件	・墨字文章 10件
・シャンプー・リンス 25件	・スイッチ 18件	・缶詰 11件	・電気製品 10件
b 家の中の物			
・お札 6件	・鞆の定期 5件	・カバドカード 2件	・録音機 2件
・硬貨 6件	・はがき 3件	・切手 2件	
c 家の中の事			
・洗たく 15件	・歯磨き 10件	・配膳 4件	
・そうじ 13件	・ゴミをとる 6件	・化粧 3件	
d 家の中の事			
・買い物 9件	・掃除 3件	・外出する 3件	
・トイレ 4件	・靴の磨き 3件		

(2) (1)のa～dに共通した不便な点

- ① (物を) 識別できない。 _____ 計延379件
- ・墨字表示がわからない・・・98件
 - ・中身が識別できない・・・97件
 - ・人の物との判別不可・・・61件
 - ・スイッチ等の判別不可・・・46件
 - ・似たような物と区別不可・・・43件
 - ・色・汚れ等がわからない・・・34件
- ② (物が) どこにあるのかわからない _____ 計延53件
- ③ 適量が計れない _____ 計 18件

(3) (2)の①～③に関して工夫している点・事

- ① 識別に関する工夫
- 手触りで分かる印を付ける _____ 計延219件
- ・点字で表示する 0147人
 - ・糸を付ける14人
 - ・輪ゴムを巻く 35人
 - ・テープ・札を付ける23人
 - その他 _____ 18件
- ② どこにあるか?に関する工夫
- ・置き場所を決める 41人
 - ・靴を脱ぐ時自分の靴に洗たくばさみを付ける 10人
- ③ 適量を計るための工夫
- ・音・音声表示製品を使用 16人
 - ・凹凸のある計量カップを使用 2人

《工夫している点・事に関して》

i 識別方法

：工夫材料は様々ですが「手触りで分かる印を付ける」が圧倒的でした。その外には、異なるメーカーの物を購入するとか（シャンプー／リンス等）、同じ色のものを買う（靴下等）といった回答もありました。

ii どこにあるか?

：工夫として、「置き場所を決める」という工夫が一番多く上がりました。これは商品への配慮ではなく、自分や家族に対しての取り決めとして行っておりそれが習慣化されていると思われます。ただし、それは家の中では通用しますが家の外ではその取り決めは通用しません。

iii 適量を計る

：この項目に関する工夫点として、「音声表示製品」（時計・電卓等）を利用していると回答した人、石油ポンプのように「何回押せば一杯になるか」の経験を積んだり、歯磨き粉を直接歯に付けたりといた声がありました。

便利な物・便利な事・便利な情報 (Q20)

(1) 使用していて便利な物, 利用していて便利な事, 便利な情報

a. 使用していて便利な物

・音声時計 39件	・りんごちゃんタイマー 9件	・醤油差し (日点販売の) 5件
・音声電卓 13件	・音声血圧計 7件	・糸通し 2件
・音声体温計 12件	・電話 6件	
・音声体重計 11件	・24時間タイマー 5件	

※上位10項目
(総回答数351件)

b. 利用していて便利な事

・朗読サービス 4件	・ガイドヘルパー 2件	・朗読ボランティア 2件
・パソコン通信 3件	・ホームヘルパー 2件	・宅配サービス 2件

※上位6項目 (総回答数21件)

c. 便利な情報

・情報テープ雑誌 (京都ロバの会発行他) 23件	・各種テレホンサービス 6件
・点字付き雑誌 6件	・点字毎日 (新聞) 2件
・有線放送 6件	

※上位5項目
(総回答数54件)

(2) a~cに共通した便利な点 (どこが)

・音 (声) で 6件	・表裏の凹凸で 3件
・触知式で 5件	・印がついていて 2件
・点字がついていて 5件	・小さいので 2件
・入れるところが分けしてあるので4件	・軽量で 2件
・表示の字が大きいので 3件	

※上位9項目
(総回答数58件)

(3) a~cに共通した便利な点 (どのように)

・音声で数字を知らせてくれる 45件	・種類を識別しやすい 5件
・音声で時刻を知らせてくれる 39件	・音声で知らせてくれる 5件
・音 (声) で操作確認できる 11件	・活字が読みやすい 4件
・触知式で確認できる 7件	・形状の違いで区別できる 4件
・一定量しか出ない 7件	・点字で操作できる 3件
・操作が簡単 5件	・点訳つきで読める 3件

※上位12項目

(総回答数186件)

〈便利な物・事・情報について〉

日常生活において直面する「識別」「(操作)確認」「適量計測」の場面において、「音(声)」「点字」「形状の違い」「触知式」といった機能が付加されている物(特に商品)を便利であるという人が多いようです。

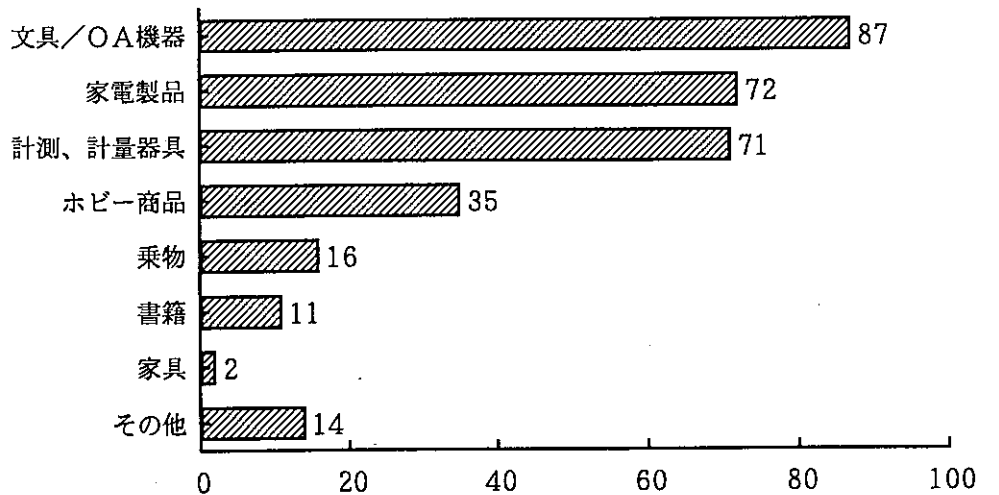
さらに、物の基本機能として、「表示の字が大きく、わかりやすいこと」「操作が簡単なこと」「携帯用のものは、小さくて軽量であること」が必要だという意見も多数ありました。

また、それらの情報を収集できる「テープ雑誌」「点字雑誌」「有線放送」「点字新聞」などのメディアをよく利用しています。

盲人用に配慮されていない為、購入しない商品

(Q21)

ほしいと思っているが、盲人用に配慮されていないために、購入しない商品をあげてください。



総回答数308件（自由回答を分類集計）
回答者153名、無回答者126名

(単位:件)

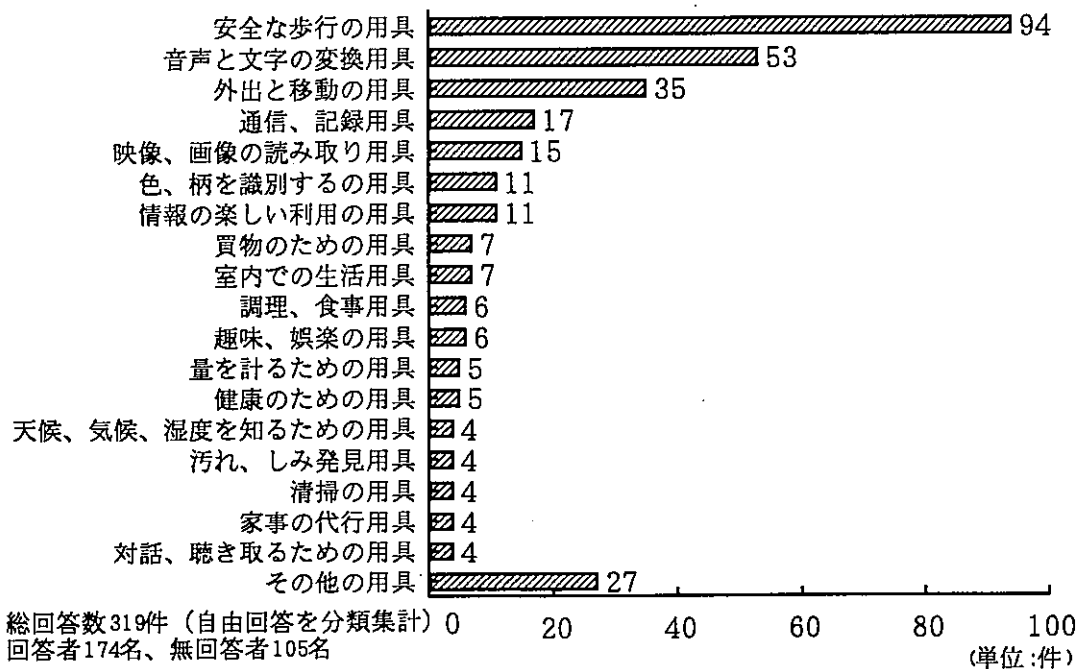
文具、OA機器、家電製品、計測・計量器具が特に多いです。OA機器の中で目が見える人とコミュニケーションができるパソコンは、簡単には操作できず、値段も高いので、使ってみたくけれども手を出しにくい商品と考えられます。一方、目の不自由な人でも使えるよう、画面の文字を音声に変換できるパソコン用ソフトが出回っています。

また、家電製品の中で使いにくいものとして、電子レンジ、洗濯機、ビデオ、電話、炊飯器などを挙げています。これらは、音声で対応するといった改良が望まれています。

計量器具では、おもに健康管理のための体温計、万歩計、血圧計などを挙げています。

世の中になくて、あったら良い商品 (Q22)

世の中になく商品で、あったら良いと思われる商品がありますか？



「あったらよい」と思う商品は、生活の中で目の代わりをするものです。最も要望が高いのは、安全な歩行のための用具です。具体的には、通路上の障害物や通行上の危険を感知し、適切な進路とタイミングを教えてくれる小型盲導ロボットです。

第2に、読み書きの時に、文字を点字や音声に、液晶表示や点字を音声に、音声を文字に変える用具を求めています。

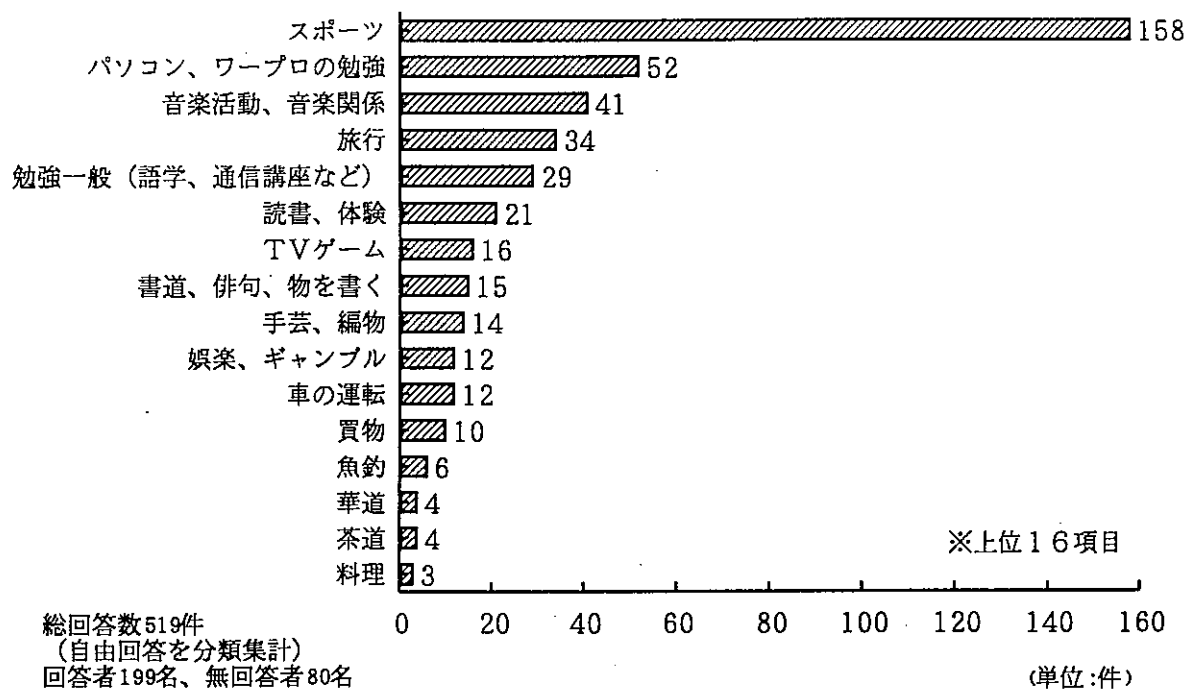
第3に、外出と移動の用具です。盲人が運転できる車、タクシーを呼んだり、公衆電話の位置を教えたり、駅で目的地までの運賃を知らせたりする機器やシステムなどを求めています。

その他、銀行などで用紙に住所や名前を記入するサイン機、化粧の仕上がりや髪の毛の乱れ、アクセサリーの位置を教える「しゃべる鏡」、衣服の色や柄、汚れなどの発見器、目が不自由でも縫ったり、切ったり、量ったりできる道具を求めています。

趣味・遊び・勉強・その他でやってみたいこと

(Q23)

趣味・遊び・勉強・その他でやってみたいと思う事がありますか？



目の不自由な人たちは、晴眼者と同じように色々なことをやりたいと思っています。これは、今回の調査の回答状況をも、複数回答ですが279票のアンケートで、519件もの「やってみたいこと」があがったことでわかりました。

全体をみると、「スポーツ」（158件）が最も多く、具体的には、「ゴルフ、自転車」が目立ちました。続いて、「パソコン・ワープロの勉強」（52件）が多く、特に「点字ワープロを習いたい」という声が目立ちました。これに、「音楽活動」（41件）、「旅行」（34件）が続いています。スポーツや旅行については、「一人でしてみたい、一人で行きたい」という要望が際立っています。

また、グラフにはのせていませんが、「その他」についてみると、「思いあたらない・余裕がない」「いろいろやっている」の2つがほとんどですが、「何でも挑戦したい」「普通の人と同じような生活をした」という声が目立ちました。

結果のまとめと考察

I. 【家の中の生活で不便な点, その他】について

家の中の生活では, 「商品や物の識別」「スイッチ等の操作・取り扱い」「すみ字の読み書き」について, 特に不便さを感じているということがわかりました. しかし, それ以外の項目も内容的には無視出来ず 結局, 「生活の全てに問題がある」と言うことができます. 又, 大半が製品や物に帰する問題であることも指摘出来ます.

食品や日用品における「識別」, 家電製品などにおける「視覚中心の操作方式」に代表される不便さは, 一見些細ですが, その製品を使用する機会が多く, 生活の必需品であるだけに殆どの対象者に関わる大きな問題となっています.

一方, 注意したい問題としては, ガスコンロや消火器など「火に関するもの」, 大工道具・刃物・洗剤など「身体へ影響を与えるもの」そして, 紙幣・預金通帳・役所からの通知・不在通知のような「財産やプライバシーに関わるもの」などについて, 識別やすみ字の判読 および, 取り扱い上の不便さがあります.

他に, 特徴的な問題として「汚れの有無」「照明の点滅」「衣類の不揃い」といった識別の悩みがあります. いずれにおいても, 本人のためということもありますが, むしろ, 他人や家族に不愉快な思いや迷惑をかけまいとする心理的要因が関与しています.

こうした実態を踏まえて, 今後の研究課題を抽出するとおよそ次のようになります.

不便さは, 全て視覚情報の認識が困難であるところに原因があります. 特に, 「すみ字の判読」が最大の問題です. ニュースなどパブリックな情報はラジオなどで補完出来ますが, 文献・書類・手紙・通知・伝票・メモなど, 情報がパーソナルになるほど対応が不自由になります. 製品やパッケージの表示など「商品に付される情報」や「取扱説明書」が認識できない, ということも合わせて適切な対策を求める課題となります.

色や映像など「すみ字以外の視覚情報の認識」にも困難があります. 温度や重さ・長さなどの計測も難しい. 特に, 液体の計量について良い手立てが欲しいところです.

このような視覚情報における認識の困難に対する策として, 「触覚化」「音声化」が望まれています. 「触覚化」とは, 製品に凹凸や点字などを設け, 触覚によって識別性や操作性を高めること. 点字によるシールや説明書の提供は, 実例もあり, 速やかな対応が可能です. 点字を読めない人が多いという現実を考慮すると, 「触覚記号」の考案も研究課題となります. 「音声化」とは, 機器や計器の取扱いにおいて, 操作の指示やヘルプ機能・表示・目盛りなどを音声で知らせる事. テープによる取り扱い説明書, 朗読サービス, テレホンサービスは広義の音声化といえます.

製品が使いやすく, わかりやすくなれば不便さはかなり軽減します. 機器や道具は当然として, 「包装・容器」にも課題があるということも, 今回の調査から読み取ることが出来ます. 内容物の識別性・開封性・出しやすさ・持ちやすさ・計量性・収納性などの点で不便さの要因を意外に多くかかえています.

II. 【家の外の生活で不便な点、その他】について

1. 家の外で不便に感じている点

今回の調査では、複数回答で231名の方から774件とQ1（家の中の不便な点）に次いで2番目に多い回答がありました。

内容的には、「放置自転車・違法駐車・電柱・標識・商店の商品が、歩道をふさぎ歩みにくい」など「道路、歩道」に関する不便な点が最も多く、次いで交通機関の「電車、バス、タクシー」「駅」「バスターミナル、バス停、タクシー乗り場」に関する不便な点が多く、「場所・方向・位置・行き先」「すみ字が読めない：料金表、時刻表」が中心となっています。その他の不便な点としては、「物を置いた時の物の位置がわからない」「買物の際の商品選び・値段の確認ができない」「公衆電話の操作・カードの残数確認ができない」などがでています。

また、「工夫している点」については、不便な点に比べて回答が少なく、内容的にもかなり苦労していることがわかります。

以上より、最も不便な点が多い「道路、歩道」の問題、「放置自転車・違法駐車」については、社会的にも問題であり、改善されなくてはいけない事です。また、歩道をふさいだり点字ブロックの上に物や商品を置くことも問題としなければなりません。

「場所・方向・位置・行き先」等の案内については、目の不自由な人以外に耳の不自由な人、車いすを利用している人、高齢の人もいますので、視覚・音声・触覚などいくつかの組合せの案内の必要性を感じました。

2. カードの保有・使用状況、CD/ATMの使用状況について

社会全般に普及しているカードについては、キャッシュカード・クレジットカード等の厚手のカードについては59%の人が所有し、オレンジカード・テレホンカード等の薄手のプリペイドカードについては75%の人が所有しています。

このカードを使う上で困っている点については、「カード本体に対する苦情・不満」が最も多く、具体的には「カードの区別、表裏がわからない」「残高がわからない」がほとんどです。また、「カード機器に対する苦情・不満」として、「機械操作の複雑さ」「タッチ式ディスプレイが使えない」「音声案内が少ない」「挿入口がわからない」などの問題を指摘しています。

CD/ATMの使用については、「使わない」という回答が全体の60.6%を占め、その理由として、「凹凸のないブラウン管の画面スイッチは全く使用できない」「銀行や機種によって操作パネルのレイアウトが異なっている」などの操作性の不便さをあげています。

以上より、カードについては、「区別」「残高」等について何らかの対策が必要と思われます。また、カード機器、CD/ATMについても、誰でも操作できる機器の開発や視覚・音声・触覚などを組み合わせた案内も望まれます。

3. 外出で困ったこと／場所、外出する際、手がかりとするもの／音や音声について
外出で困ったこと／場所については、前述のとおりで、ほぼ同じ内容となっています。
外出する際の手がかりとしては、「角の建物、お店、塀および壁」が最も多く、色々な情報
を取り入れて外出されているようです。また、「点字ブロック」も欠かせない手がかりとな
っています。その他「生活音」「誘導音」など、音・音声も手がかりとして上位にあがって
います。

改善点などの要望についても、〔1.〕とほぼ同様ですが、「点字ブロックに対する要望
：敷き方の統一」「1つの駅での複数乗り入れ：行き先案内の改善」などがあげられていま
す。しかし、目の不自由な人には改善になるが、車イスを利用している人、耳の不自由な人
には改悪となる場合もあり、あらゆる面からの検討が必要と思われれます。

まず、現状の中でできる改善の提案（たとえば、点字ブロック敷き方の統一）」などを推
進し、次に「場所・方向・位置・行き先」に関して、視覚・音声・触覚等いくつかの組み合
わせの案内の検討等の推進を提案したいと思います。

Ⅲ. 【商品の購入】について

目の不自由な人が商品を購入する際、最も利用しやすいのは「小売店」であるようです。
説明を十分に受けられることや、品物を探したり、取ったりしてくれるなど、買物を手伝
ってもらえることが主な理由です。さらに、「顔なじみ」になれる、「信頼関係」が保て
るなど、人と人との触れ合いがある点や、電話注文ができ、宅配サービスが受けられるこ
と、家に近いことなどを含め、都合のよい条件が揃っているからです。

小売店以外は、それぞれの業態に良い点と不都合な点が指摘されました。良い点は「品
物が豊富」で一ヶ所で間に合う、「ガイドサービス」がありがた確な説明や相談が可能、ま
たは、「点字や音声による」情報提供がある、「宅配サービス」があるといったことです。
一方、不都合な点は、「商品と売り場に関する情報」が得られない、「店員が少ないため」
手助けがうけにくい、「売り場が広すぎる」、「家から遠い」などといった内容です。特
に、スーパーやコンビニエンスストアは品物は豊富で、近所にあるため利用したいと思っ
ていますが、セルフサービスを基本としているため、ちょっと利用しにくいようです。

以上のような理由から、お店について最も要望されているのは「ショッピング介助サー
ビス」の制度化です。十分な商品情報の提供とともに、店員さんの親切な対応を求めてい
ます。点字表示や館内放送の充実も、目の不自由な人にとって有益な配慮となります。い
ずれにしても、人と人との良好な関係性がポイントとなります。その意味においては、小
売店も同様であると言っていいでしょう。

IV. 【商品情報の入手、取り扱い説明書】について

1. 商品情報の入手

買いたい商品の情報を入手する手段としては、ラジオ、知人、テレビ、テープ雑誌からが多いです。また、直接店にでかけて店の人より情報を得ている人も多いです。最近の傾向として、パソコン通信やファクシミリサービスを利用して情報を得ている方も増えており、今後の商品情報の入手手段として有望と思われれます。

2. 取り扱い説明書について

購入したい商品の取り扱いがわからない時、「店の人に使い方をよく聞く」ことが最も確実な方法ですが、その後「家族、友人」などに説明書を読んでもらい、理解を深めることが多いです。晴眼者でも、購入時に使用方法について店の人の説明を受け、その後、何度も説明書を読み、実際に動かして覚えるので、誰にとっても取り扱い説明書は必要なものです。

そのため、点字の説明書や説明録音テープの提供を望む声が多いです。また、現状の取り扱い説明書についても、表現が複雑でまわりくどくわかりにくいといった声が出ています。

さらに、説明書内のカタカナ、横文字、専門用語等は、目の不自由な人ばかりでなく高齢者・子供・その分野に専門知識のない利用者にとっても理解しにくいものになっています。特に、電気製品（TV、ビデオ、オーディオ機器、エアコン、その他家庭用品）など日常生活に欠かせない物には、わかりやすい説明を点字、テープなどで提供することが望まれます。

このように、商品の取り扱い説明書は必要なものですが、今回のアンケート調査では、説明書希望タイプとして点字（66.3%）、テープ（21.1%）で90%近く占めています。そのため、メーカー側にとって既存の説明書よりコストアップになるわけですが、その場合の説明書の有料化についても半数以上の方が仕方がないと思っています。説明書の点字化、テープ化やフリーダイヤルを利用したお客様サービス等が望まれます。

V. 【視覚障害者を取りまく製品(物)】について

(1) 視覚障害者を取りまく製品(物)の分類

今回のアンケート調査から、視覚障害者を取りまく製品が次のように分類できます。

- A: 視覚障害者が使える物、または使える種類がある一般生活用品
- B: 家庭等でなんらかの工夫を施せば視覚障害者も使える一般生活用品
- C: 視覚障害者専用品
- D: 今の段階では工夫のしようがなく視覚障害者には使えない一般生活用品
- E: 視覚障害者だけしか必要ないが、あったら便利な専用品

A～Cは視覚障害者が使える物。Dは視覚障害者1人では使えない物です。

(2) 各分類の現状と展開

- A: この分類の中には、テレホンカードの方向を示す窪みのように始めから視覚障害者が使う事をあらかじめ予定して作られた物もありますが、大多数が「偶然」視覚障害者も使えるといったものです。今後、その偶然の「配慮点」が標準化され、継続的に「使える物」になっていく事が望めます。
また、この分類の製品情報が視覚障害者に届いていないことが多い事が今回の調査でわかりました。他の分類商品同様「情報提供」も大きな課題です。
- B: シャンプー・リンスのどちらかに輪ゴムを巻くといった消費者の工夫点が、メーカーを動かし、シャンプーの容器に小さなざざざが付きました。このように、視覚障害者が行なっている様々な工夫をヒントに「最初からの配慮」がメーカーで行なわれる事が望めます。
- C: 視覚障害者専用品は、使いやすい物が多いが少量生産の為価格が高いのが最大の課題
- D: 技術の進歩と、コスト競争によって液晶表示が主流になってきていますが、視覚障害者のように「使えない消費者」を新たに生み出している事実を各メーカーに示す事から始める必要があります。
- E: この分類の中で、希望として多いのは「盲導犬ロボット」のように「歩行」に関するものや、「液晶表示を音声で読んでくれるもの」のような「読み書き」に関するものです。しかし、「盲人にも運転できる車」や「触って画面がわかる立体テレビ」といった希望もありました。また、やってみたい事の1位が「スポーツ」というように、視覚障害者の要望が「外」に向けられてきている分、「共用品」も生活必需品に限られるのではなく広い範囲の「配慮」が必要になってくるでしょう。

(3) 今後の課題

今回の調査項目の中で製品に関する回答を元に、製品の分類と課題を列記しましたが、現状を把握したまでです。次のステップとしては「共通の配慮点」の考察と「配慮点のガイドライン」作成が「共用品普及」への課題となります。

調査シート

「日常生活での不便さ調査」 ご協力をお願い

このたびは、アンケートへのご協力ありがとうございます。別紙のとおり、アンケート用紙をお送りさせていただきます。

”障害者と健常者の共用デザインを考える会”（E&Cプロジェクト）では、障害のある方が日常生活で利用されている環境、設備、機器、用具についての不都合やご不便を少しでも解消するために、結成され活動しています。

私達は、日常生活で使われているそれらの物の開発、計画、設計、デザインなどの初めの段階から、障害をもった方々にとって、暮らしやすさ、使いやすさを考えたモノづくりをするために、できるだけ多くのメーカーが、共通の方針で取り組んでいける「ガイドライン」（指針）を作り普及させることを目標にしています。

このたび、その活動の一環として、視覚に障害のある方を中心に、日常生活での不都合、不便さの実態調査を行ない、問題点の解決に役立てる情報を集めさせていただくことになりました。この調査は、みなさまの生の声を聞きたいと考え、自由回答が多く作られています。みなさまが、普段感じていることをそのまま書きいただくことが、この調査の狙いとするところです。普段使われている言葉で結構ですので、ありのままをお書きくだされば幸いです。

お忙しいところ誠にご面倒ですが、趣旨をご理解いただき、ご協力下さいますようお願い申し上げます。

また、この調査結果は目的以外に決して使用せず、個人のプライバシーは厳守いたします。

平成4年12月吉日

E & Cプロジェクト 代表 鴨志田厚子

尚、お問い合わせは日本点字図書館 用具事業部内 E & Cプロジェクト事務局 杉山まで
電話 東京 03-3209-0751（午前9時より午後5時まで）

<回答上の注意点>

- (1) 回答はすみ字、点字どちらでも結構です。同封の用紙をご利用ください。
尚、すみ字の場合は専用の回答用紙を、点字の場合は、点字用紙をご利用ください。
- (2) 点字で回答される方は、回答の頭には、必ず質問の頭についている番号を転記してください。(1, 2, 3, 4~)
- (3) 点字で回答される方は、3マス目から書きはじめ、問題毎に改行してください。
- (4) 自由回答と選択回答があります。
- (5) 自由回答は、言葉で出来るだけ詳しく記入してください。質問の最後に(自)と書いてあります。
- (6) 選択回答は、記号のみを記入してください。(ア, イ, ウ, エ~)
- (7) 全部で46問あります。答えにくい質問はとばしても結構です。
それでは、以下の質問にお答えください。

●はじめに、家の中の生活についてお伺いします。

1. あなたが普段、日常生活の中で不便さを感じている点を上位5つまであげてください。
(自)
(例) 缶詰めは形が似通っていて種類が識別出来ない。

●次に、商品やサービスについてお伺いします。

2. あなたが利用しやすいお店はどこですか？(記号で)いくつでも
ア.小売店 イ.コンビニエンスストア ウ.百貨店 エ.通信販売 オ.スーパー
カ.その他(自)
3. それは、何故ですか？ それぞれ理由を教えてください。(自)
(例)ア. イ.
4. 利用しにくいお店はどこですか？(記号で)いくつでも
ア.小売店 イ.コンビニエンスストア ウ.百貨店 エ.通信販売 オ.スーパー
カ.その他(自)
5. それは、何故ですか？ それぞれ理由を教えてください。(自)
6. あなたの立場から、買い物をする際にお店に対して望む事は何か？(自)
7. 買いたい商品の商品情報を主にどこから得ていますか？(記号で)多い順に上位5つまで
ア.ラジオ イ.有線放送 ウ.テレビ エ.テープ雑誌 オ.点字情報誌
カ.ダイレクトメール キ.店の人 ク.知人 ケ.その他(自)
8. 商品の取扱いがよく判らないときは、どのようにされますか？(記号で)いくつでも
ア.店の人に扱い方をよく聞く
イ.買ってから家族などに、説明書を読んでもらう
ウ.友人に使い方を教えてもらう
エ.図書館朗読サービスで読んでもらう
オ.その他(自)

9. 現状の取扱い説明書についての感想をお聞かせください。(自)

10. 点字・大活字・テープ等の説明書があるとしたらどれを選びますか？

(記号で) いずれか一つ

ア.点字 イ.大活字 ウ.テープ エ.現状のまま(すみ字)

11. 10のア、イ、ウの説明書が有料になっても仕方がないと思いますか？(記号で)

ア.はい イ.いえ

12. 家電製品などは、以前に比べて使いにくくなったと思いますか？(記号で)

ア.はい イ.いいえ ウ.どちらともいえない

13. 使いにくい家電製品をいくつでもあげてください。そしてその使いにくい理由を下記の中から選んでください。(記号で)いくつでも

〈例〉洗濯機 ア、イ、ウ
電話機 エ、カ、キ、ク

ア.スイッチの位置がわかりにくい

イ.押したかどうか確認ができない

ウ.現在の状態がわからない

エ.スイッチの働きがわからない

オ.液晶表示なのでわからない

カ.表示の文字が小さいのでわからない

キ.操作の手順がわからない

ク.ひとつのスイッチやつまみが複数の働きをするのでわからない

ケ.その他(自)

14. 音声対応にして欲しい物は何ですか？(家電製品以外でも)また、具体的に、どこを音声化してほしいですか？(自)いくつでも

15. 危険を感じるため、使えない物がありますか？また、その理由を教えてください。(自)いくつでも

16. 家電製品以外の日用品で使いにくい物がありますか？また、その理由を教えてください。(自)いくつでも

17. 同じような外形で、種類や中身が区別しづらい商品がありますか？(自)いくつでも

18. 家庭に配布されたり、配達されたりするものの確認や対応で、困ることは何ですか？(自)

19. 日常生活で、工夫されている事がありましたら、どのような物・事でも結構ですので教えてください。どういう時、どんな物を、どのように工夫しているかを書いてください。(自)いくつでも

*以下のことをヒントにして、考えてみて下さい。

・朝起きる時や、寝る時 ・洗面、洗髪、化粧などの身づくろい ・入浴 ・食事

・トイレ ・趣味 ・掃除、洗濯 ・外出しようとする時 ・育児 など

〈例〉靴下を脱いだとき、輪ゴムで結んで置くと、洗濯の後、左右を合わせやすい

20. 使用していて便利な物、利用していて便利な事・便利な情報を教えてください。(自)いくつでも

21. ほしいと思っているが、盲人用に配慮されていないために、購入しない商品をあげてください。(自)いくつでも
22. 世の中にない商品で、あったら良いと思われる商品がありますか？ また、その理由を教えてください。(自)いくつでも
23. 趣味・遊び・勉強・その他でやってみたいと思う事がありますか？(自)いくつでも

●家の外の生活についてお伺いします。

24. 普段、家の外の生活で不便さを感じている点、または工夫している点を具体的に教えてください。(自)上位5つまで
 〈例〉 電車に乗ったとき空席が判らない。
25. 銀行カードやプリペイドカードなどいろいろなカードが使われていますが、カードは大きく2種類に分けられます。ア)厚手で凹凸のあるカード(キャッシュカード・クレジットカードなど)と、イ)薄手で平らなカード(オレンジカード・テレフォンカードなど)です。あなたはそれぞれ何枚くらいのカードを持っていますか？
 〈例〉 ア 〇〇枚、イ 〇〇枚
26. カードの区別やカードを使う上で困っている事がありますか？(自)いくつでも
27. あなたは銀行や郵便局で自動機(CD, ATM)を使いますか？(記号で)
 ア.使う イ.機械によっては使う ウ.使わない
28. 27で(ア)、(イ)と回答された方は不便な点、困る点を、また、(ウ)と回答された方はその理由をお書きください。(自)いくつでも
29. お一人で外出する際、今までの体験で、ア)困った事(危険・事故等)、イ)その具体的な場所名、ウ)その理由、エ)改善して欲しいことを記入してください。
 (自)いくつでも
 〈例〉ア.誘導ブロックと床材の区別が困難
 イ.〇〇県・〇〇市・〇〇駅前広場
 ウ.床材の目地幅が広く白杖では誘導ブロックと同じに感じる。
 エ.誘導ブロックと床材の凹凸の差を明確に(この場合は目地幅を小さく)
30. 一人で外出する際、手掛かりにするものは何ですか？(記号で)いくつでも
 ア.街角の建物、お店、塀及び壁 イ.点字案内 ウ.点字ブロック エ.誘導音
 オ.音声案内 カ.生活音 キ.人に聞く ク.その他(自)
31. 30で選択した項目について、良かった事、改善して欲しい事があればお答えください。(自)いくつでも
 (例)トイレの中にも点字ブロックを敷いてほしい。
32. 外出の際、どのような音や音声役だっていますか、また、どのような音が無くなって困っていますか？(自)いくつでも

●最後に、あなたご自身の事についてお答えください。

33. お名前
34. 性別

35. 年齢
36. 視力の程度
 ア. 先天盲
 イ. 後天盲（失明から現在までの年数もお書きください。）
 ウ. 電灯の光が見える程度
 エ. 目の前で手を動かしたらわかる程度
 オ. 目の前で指の数が数えられる程度
 カ. 補助具を使っても文字は読めないが、行動に不自由ない程度
 キ. 補助具を使えば文字が読める程度
 ク. 特に暗い所で視力が落ちる
 ケ. その他
37. 晴眼者と同居していますか？
 ア. はい イ. いいえ
38. 一人での歩行について（記号で）いずれか一つ
 ア. 白杖を使用しない イ. 白杖を使用する ウ. 手引きを必要とする
 エ. 盲導犬を使用 オ. その他（自）
39. 職業について（記号で）
 ア. 在宅で仕事 イ. 通勤して仕事 ウ. 主婦 エ. 学生
 オ. 無職 カ. その他（自）
40. 普段、書くときに使う文字は何ですか？（記号で）いくつでも
 ア. 点字 イ. カナタイプ ウ. 視覚障害者用ワープロ エ. 普通のワープロ
 オ. 普通文字 カ. 代筆 キ. その他（自）
41. 点字は読めますか？（記号で）
 ア. 苦労なく読める イ. どうか読める ウ. まったく読めない エ. その他（自）
42. ニュースなどの情報を知る方法は？（記号で）多い順に上位5つまで
 ア. テレビ イ. ラジオ ウ. 点字情報誌で エ. テープ図書で オ. 有線放送で
 カ. パソコン通信 キ. 家族などに読んでもらう ク. 図書館朗読サービスを利用
 ケ. すみ字 コ. その他（自）
43. 外出はよくしますか？（記号で）いずれか一つ
 ア. 一人でよく外出する イ. 一人でたまに外出する ウ. 手引き者と一緒に外出する
 エ. したいが不安 オ. 外出はしたくない
44. 上記質問で、エ、オと答えた方は、理由を教えてください（自）
45. 旅行はしますか？（記号で）いずれか一つ
 ア. よくする イ. たまに ウ. したいが不安 エ. したくない
46. 上記質問でウ、エと答えた方は、理由を教えてください（自）

以上で終わりです。どうもありがとうございました。アンケート用紙は、同封の封筒で
 ご返送ください。なお、勝手ながら12月21日までに届くようお願いします。

参考資料

視覚障害者の見え方の程度

法的には、身体障害者手帳に該当する視覚障害は1級～6級に分けられています。そのうち1級と2級が重度視覚障害者ですが、2級は視力0.02から0.04までなので、日常生活においてはかなり有利です。0.04の視力があれば、テレビ式拡大読書器などを使用して普通文字を読み書きすることができますし、近くにくれば障害物も判断できます。それが、日常生活においていかに有利であるかは言うまでもないことです。

それに対し、1級は不便さがぐんと増します。ところが、その1級にもさまざまな視力があり、それによって不便さはかなり違います。したがって、一概に盲人と言っても、残存視力の程度によって不便さが異なりますので、その人の不便さを判断する場合には十分に注意する必要があります。

視力表で計ることができない視力の分類について、以下に簡単にふれてみましょう。

1. 全盲 言うまでもなく、周りが明るい暗いとも判別できないものです。
2. 光覚 暗室で、豆電球の光が判別できる視力です。部屋の電灯がついているかいないか、窓が閉まっているかいないかがわかるなど、日常生活においては、光覚があるだけでもずいぶん有利になります。夜道で、街灯や家の窓の明かりを目印にすることができますし、天井の電灯を目印に、廊下を真っすぐ歩くこともできます。
3. 手動弁 眼前で手を左右に振ると、その動きが判別できる視力を言います。ごく近くにならないとわかりませんが、動いている物体がわかるのは、行動にとってたいへん有利です。
4. 指数弁 同じく眼前で指の数が数えられる視力です。その距離によって、20センチ指数とか、30センチ指数という言い方をします。その段階になると、行動面での危険性はかなり減少します。行動面だけ見ていると、それほど視力が悪いとは思えない動きをすることがよくあります。50センチ以下で指数を測りますが、指数弁は、指数が測定できれば0.01に換算されます。
5. 視野の欠損 視力とはあまり関係なく、視野が欠けている人がいます。緑内障では、症状によって視野のあちこちが欠けますし、網膜色素変性症の典型的なものは、周辺の視野が欠けるトンネル・ビジョンとなります。また、黄斑部変性症などは視野の中央部が欠損します。こうした視野の欠損は、見えているようで見えていない場合がよくあり、その人の視野の状況を正しく理解しておく必要があります。トンネル・ビジョンでは、明るい所では全く異常を感じなかったのに、暗い場所に入ったとたん、全盲と変わらない行動しかできなくなることがあります。介護しているときには注意しなければならない点です。
6. 色盲、色弱 視力や視野の障害のほかに、色の識別が困難な人がいます。色盲は視力と関係ありませんが、色弱は視力の弱い人によく見られます。中間色の識別が難しいと訴える人が多く、色の違いで判断させるような指示はやはり避けるべきでしょう。

このように見え方の程度は、人によってかなり異なります。千差万別と言ってよいかもしれませんが、全盲の場合でも、その人の触察能力によって意見が違ふことがよくありますが、少し見える人々の場合はなおさらです。また、目の病気などによって急に視力を失った人は、たとえ0.04の視力が残っていても「全く見えない」と感じる場合が多いものです。普通の視力から0.04になればそう感じるのも無理のないところですが、残存視力を十分に活用している人に比べると、その行動能力には大きな差があります。このように、さまざまな異なる条件をもつ人々の意見を集約することはたいへん難しく、対応には細心の配慮が必要でしょう。

(参考)

視覚障害の範囲および程度の等級表（厚生省の基準）

身体障害者の範囲	次に掲げる視覚障害者で、永続するもの		
	①両眼の視力（万国式試視力表によって測ったものをいい、屈折異常があるものについては、矯正視力について測ったものをいう）がそれぞれ0.1以下のもの ②1眼の視力が0.02以下、他眼の視力が0.6以下のもの ③両眼の視野がそれぞれ10度以内のもの ④両眼による視野の1/2以上で欠けているもの		
身体障害程度等級表	級別	視覚障害	備考
	1級	両眼の視力の和が0.01以下のもの	身の日常生活活動が極度に制限される
	2級	両眼の視力の和が0.02以上、0.04以下のもの	
	3級	両眼の視力の和が0.05以上、0.08以下のもの	家庭内の日常生活活動は、独力で最低限のものを行うことができる
	4級	1. 両眼の視力の和が0.09以上、0.12以下のもの 2. 両眼の視野がそれぞれ5度以内のもの	
	5級	1. 両眼の視力の和が0.13以上、0.2以下のもの 2. 両眼の視野がそれぞれ10度以内のもの 3. 両眼による視野の1/2以上が欠けているもの	社会生活活動には相当の制限をうけるが、それほど著しい制限ではない
6級	1眼の視力が0.02以下、他眼の視力が0.6以下のもの で両眼の視力の和が0.2を超えるもの		

(身体障害者福祉法)

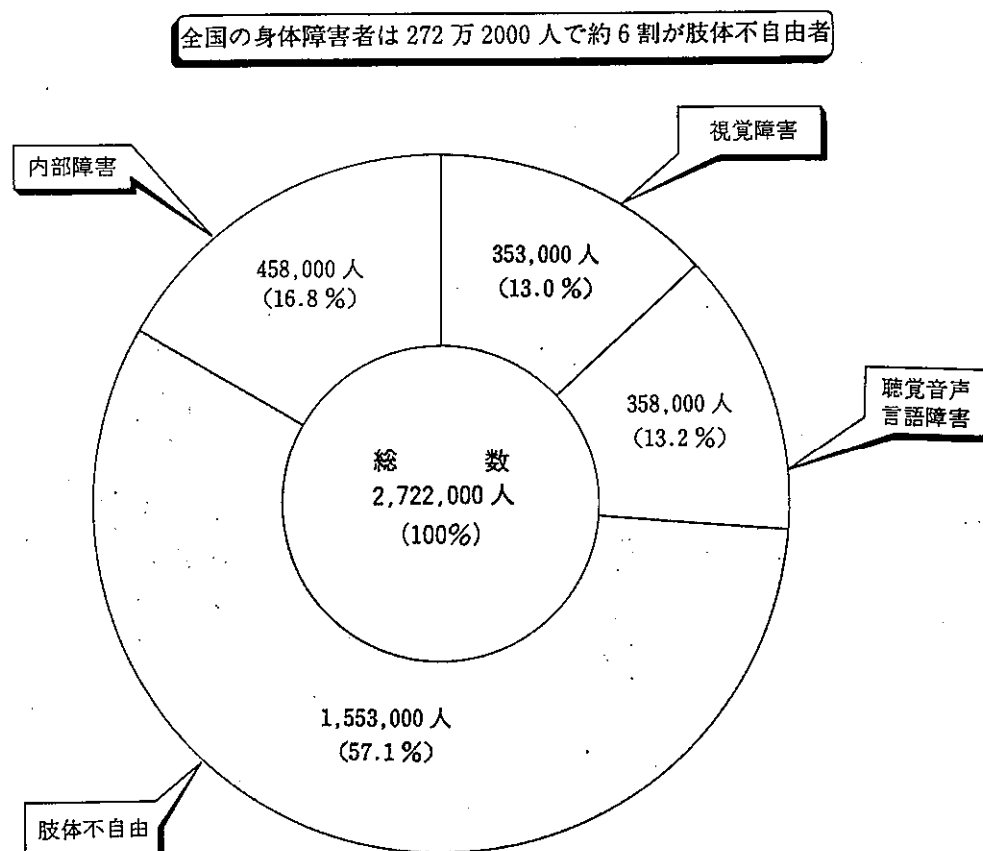
身体障害者の実態

(平成3年11月実態調査結果から)

わが国における在宅の身体障害者(18歳以上)の実態については、昭和26年以来おおむね5年ごとに全国調査が行われています。平成3年11月に実施された調査結果によれば、全国の身体障害者(在宅)の総数は、2,722,000人と推定され、人口1,000人に対して28.3人となっています。

(1) 障害の種類別にみた身体障害者数

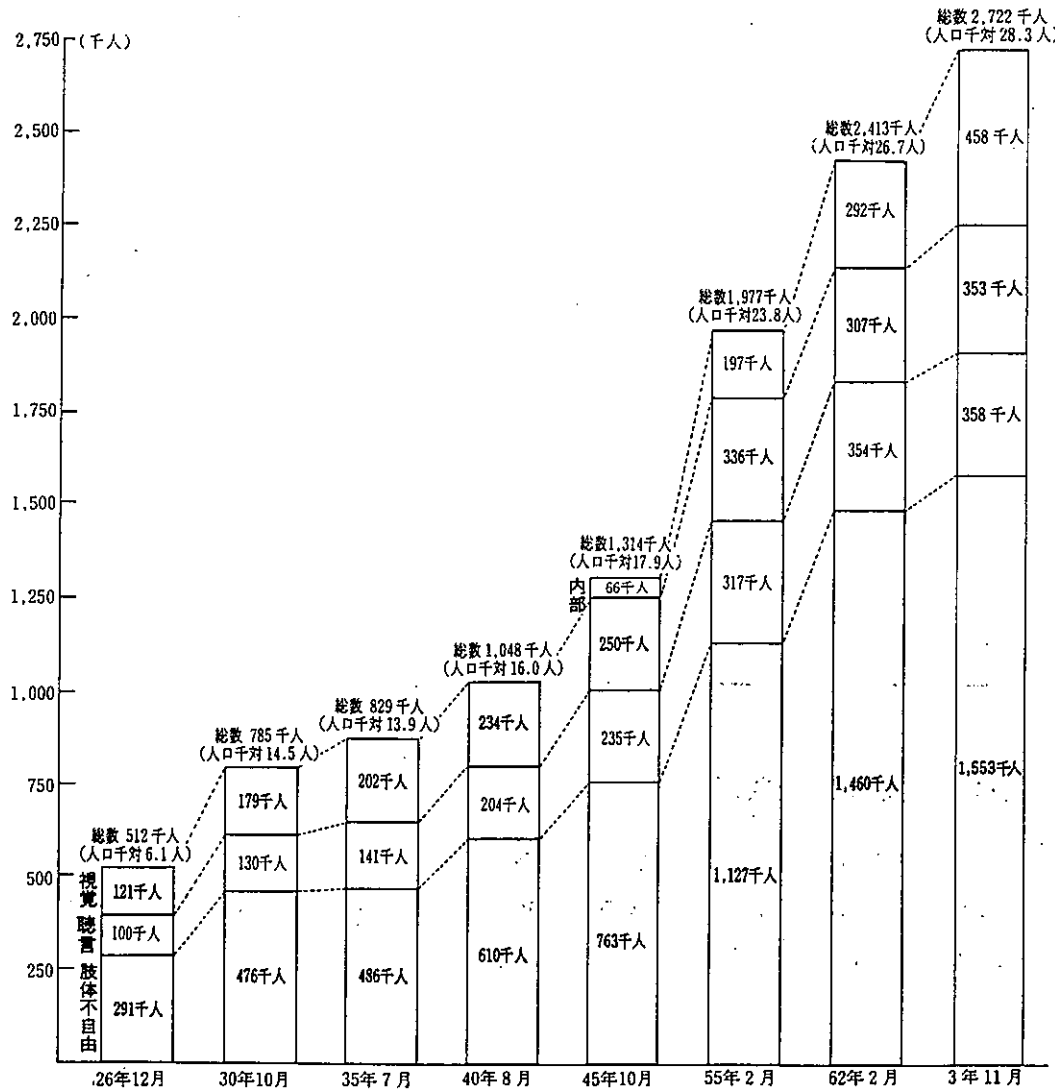
これらの身体障害者を主な障害の種類別にみますと、下図のとおり肢体不自由者が1,553,000人で57.1%、内部障害者が458,000人で16.8%、聴覚音声言語障害者が358,000人で13.2%、視覚障害者が353,000人で13.0%となっています。



(2) 身体障害者数の推移

身体障害者の実態を昭和62年調査と比較してみると総数では309,000人増加しています。障害種別では、内部障害が166,000人、肢体不自由が93,000人、視覚障害が46,000人、聴覚・音声言語障害が4,000人と、それぞれ増加しています。

内部障害者の増加は57%で最も高い



(注) 内部障害については、昭和42年8月から心臓・呼吸器機能障害が、昭和47年8月からじん臓機能障害が、昭和59年10月からは、ぼうこう又は直腸の機能障害が、昭和61年10月からは小腸機能障害が、それぞれ身体障害者の範囲に取り入れられました。

(3) 身体障害者の人口比

人口1,000人に対する身体障害者の比率を昭和62年調査と比較してみると、次表のとおり平成3年人口比率は総数で28.3人と昭和62年の26.7人を1.6人上回っています。また、年齢階級別にみた人口比率は高年齢ほど高くなっており、70歳以上で総数の比率の3.2倍、65歳～69歳で2.7倍、60歳～64歳で1.9倍となっています。

人口1,000人のうち約28人は身体障害者

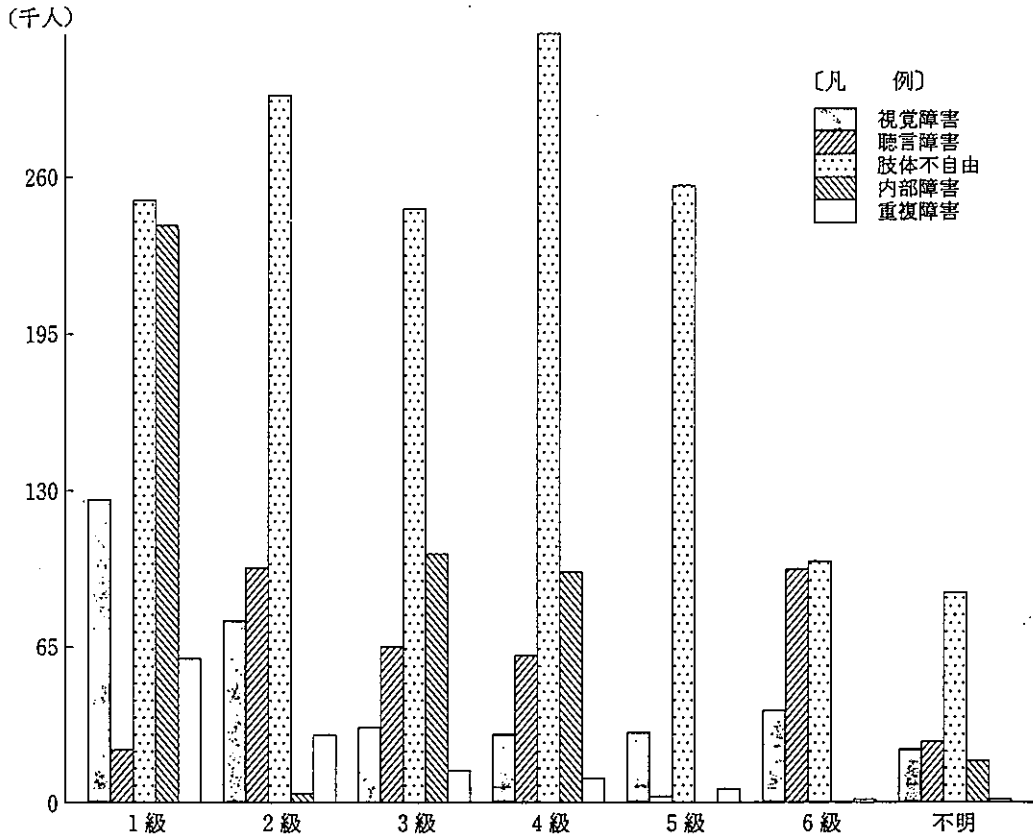
年齢階級別対人口比の推移（人口千人対）

調査年月	総数	18歳 }	20 }	30 }	40 }	50 }	60 }	65 }	70 以上
		19歳	29	39	49	59	64	69	
	人	人	人	人	人	人	人	人	人
30年10月	14.4	5.3	7.1	14.5	16.0	20.6	25.4	29.4	
35年7月	13.7	5.2	5.4	10.0	16.0	20.0	28.2	39.1	
40年8月	15.7	3.9	4.1	7.1	15.8	24.8	38.9	63.9	
45年10月	17.9	3.3	4.9	7.7	15.8	29.7	40.9	56.2	63.7
55年2月	23.8	3.5	4.9	7.0	16.0	33.7	55.8	68.7	87.6
62年2月	26.7	2.2	4.9	9.1	15.7	31.7	56.9	72.9	88.0
3年11月	28.3	3.9	4.1	8.3	13.4	28.9	54.5	75.9	90.4

(4) 身体障害者の等級別状況

身体障害の程度等級は、身体障害者福祉法施行規則の「障害程度等級表」によって最も重い1級から6級までに分けられていますが、その分布状況を見ると、1,2級の障害者が1,092,000人で40.1%を占めており、昭和62年の実態調査の38.3%に比較して1.8%上回っています。

視覚障害者内部障害者は重度が多い



1, 2級の重い身体障害者は1,092,000人で40.1%を占める

(単位：千人)

	総数	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	不明
62年2月	2,413 (100%)	475 (19.7)	448 (18.6)	408 (16.9)	458 (19.0)	326 (13.5)	236 (9.8)	62 (2.6)
3年11月	2,722 (100%)	638 (23.4)	454 (16.7)	448 (16.5)	506 (18.6)	288 (10.6)	238 (8.7)	150 (5.5)
対62年比	112.8	134.3	101.3	109.8	110.5	88.3	100.8	241.9
視覚障害	353 (100%)	127 (36.0)	76 (21.5)	32 (9.1)	29 (8.2)	29 (8.2)	39 (11.0)	21 (5.9)
聴言障害	358 (100%)	21 (5.9)	85 (23.7)	66 (18.4)	62 (17.3)	2 (0.6)	99 (27.7)	24 (6.7)
肢体不自由	1,553 (100%)	250 (16.1)	290 (18.7)	247 (15.9)	319 (20.5)	257 (16.5)	101 (6.5)	89 (5.7)
内部障害	458 (100%)	240 (52.4)	3 (0.7)	103 (22.5)	96 (21.0)	— (—)	— (—)	17 (3.7)
重複障害 (再掲)	121 (100%)	62 (51.2)	28 (23.1)	14 (11.6)	10 (8.3)	5 (4.1)	1 (0.8)	1 (0.8)

()内は構成比(%)

(5) 身体障害者の年齢階級別状況

年齢階級別の状況を見ると18歳～39歳が8.2%、40歳～59歳が27.0%、60歳以上が62.7%であって、高齢者が大きな割合を示しています。

60歳以上の身体障害者は1,707,000人で全体の62.7%

(単位：千人)

区分	総数	18～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65～69	70以上	不詳
62年2月	2,413 (100%)	8 (0.3)	78 (3.2)	182 (7.5)	269 (11.1)	483 (20.0)	326 (13.5)	312 (12.9)	756 (31.3)	— (—)
3年11月	2,722 (100%)	16 (0.6)	71 (2.6)	136 (5.0)	266 (9.8)	467 (17.2)	377 (13.9)	412 (15.1)	918 (33.7)	58 (2.1)
対62年比	112.8%	200.0	91.0	74.7	98.9	96.7	115.6	132.1	121.4	皆増

()内は構成比(%)

(6) 障害の原因別状況

身体障害を原因別にみると疾病によるものは、1,588,000人で58.3%を占めており、事故によるものは525,000人で19.3%となっています。

障害の原因は58%が疾病

(単位：千人)

	総数	事 故					疾 病					不明	不詳	
		交通 事故	労働 災害	その他 の事故	戦傷病 災	小計	感染症	中毒性 疾患	その他 の疾患	出生時 の損傷	その他			小計
62年2月	2,413 (100%)	121 (5.0)	223 (9.2)	157 (6.5)	92 (3.8)	592 (24.5)	114 (4.7)	9 (0.4)	1,192 (49.4)	93 (3.9)	220 (9.1)	1,627 (67.4)	194 (8.0)	— (—)
3年11月	2,722 (100%)	115 (4.2)	186 (6.8)	154 (5.7)	69 (2.5)	525 (19.3)	85 (3.1)	9 (0.3)	1,172 (43.1)	97 (3.6)	226 (8.3)	1,588 (58.3)	205 (7.5)	404 (14.8)
対62年比	112.8%	95.0	83.4	98.1	75.0	88.7	74.6	100.0	98.3	104.3	102.7	97.6	105.7	皆増
視覚障害	353 (100%)	4 (1.1)	10 (2.8)	19 (5.4)	8 (2.3)	40 (11.3)	8 (2.3)	—	171 (48.4)	16 (4.5)	34 (9.6)	228 (64.6)	34 (9.6)	51 (14.4)
聴言障害	358 (100%)	5 (1.4)	9 (2.5)	9 (2.5)	15 (4.2)	38 (10.6)	4 (1.1)	3 (0.8)	114 (31.8)	21 (5.9)	49 (13.7)	192 (53.6)	65 (18.2)	64 (17.9)
肢体不自由	1,553 (100%)	104 (6.7)	160 (10.3)	125 (8.0)	45 (2.9)	434 (27.9)	56 (3.6)	5 (0.3)	608 (39.2)	55 (3.5)	105 (6.8)	829 (53.4)	66 (4.3)	223 (14.4)
内部障害	458 (100%)	2 (0.4)	7 (1.5)	1 (0.2)	1 (0.2)	12 (2.6)	17 (3.7)	0 (0.1)	279 (60.9)	4 (0.9)	38 (8.3)	339 (74.0)	40 (8.7)	67 (14.6)
重複障害 (再掲)	121 (100%)	3 (2.5)	5 (4.1)	4 (3.3)	2 (1.7)	15 (12.4)	4 (3.3)	—	57 (47.1)	4 (3.3)	11 (9.1)	76 (62.8)	7 (5.8)	23 (19.0)

(注) 「その他」には先天性障害者等が含まれている。

()内は構成比(%)

(7) 障害の原因別にみた病名の状況

(単位：千人)

	総 数	肢 体 不 自 由							聴 言 障 害			視 覚 障 害		
		脳 性 マ ヒ	脊 髓 性 小 児 マ ヒ	脊 髓 損 傷 I	脊 髓 損 傷 II	進 行 性 筋 萎 縮 症	脳 血 管 障 害	骨 関 節 疾 患	リ ウ マ チ 性 疾 患	中 耳 性 疾 患	内 耳 性 疾 患	角 膜 疾 患	水 晶 体 疾 患	網 視 脈 神 経 膜 疾 患
62年2月	2,413 (100%)	65 (2.7)	53 (2.2)	76 (3.2)	13 (0.5)	354 (14.7)	232 (9.6)	93 (3.8)	97 (4.0)	103 (4.3)	63 (2.6)	63 (2.6)	112 (4.6)	
3年11月	2,722 (100%)	67 (2.5)	43 (1.6)	34 (1.2)	29 (1.1)	12 (0.4)	325 (11.9)	214 (7.9)	96 (3.5)	73 (2.7)	89 (3.3)	46 (1.7)	55 (2.0)	105 (3.9)
対62年比	112.8	103.1	81.1	82.9	92.3	91.8	92.2	103.2	75.3	86.4	73.0	87.3	93.8	

(注) 表中の脊髄損傷Iは「対マヒ」を、脊髄損傷IIは「四体マヒ」をいう。()内は構成比(%)

	内 部 障 害						そ の 他	不 明	不 詳
	じん 臓 疾 患	心 臓 疾 患	呼 吸 器 疾 患	ぼ う こ う 疾 患	大 腸 疾 患	小 腸 疾 患			
62年2月	74 (3.1)	136 (5.6)	65 (2.7)	14 (0.6)	20 (0.8)	1 (0.0)	656 (27.2)	125 (5.2)	— (—)
3年11月	95 (3.5)	195 (7.2)	68 (2.5)	16 (0.6)	25 (0.9)	1 (0.0)	521 (19.1)	103 (3.8)	512 (18.8)
対62年比	128.4	143.4	104.6	114.3	125.0	100.0	79.4	82.4	皆増

1 身体障害児の実態

(1) 身体障害児数

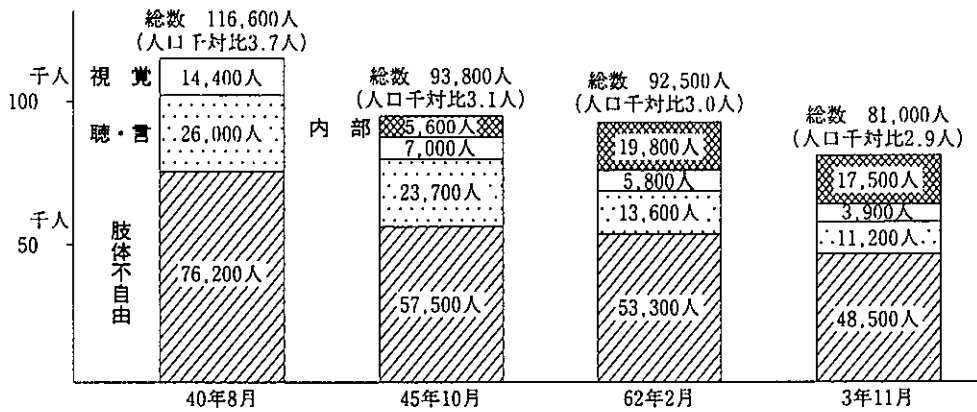
① 全国の18歳未満の在宅の身体障害児数は、81,000人と推計される。前回（昭和62年2月）調査の92,500人に比し、12.4%減少している。

② 身体障害児を障害の種類別にみると、肢体不自由児は48,500人、内部障害児は17,500人、聴覚音声言語障害児は11,200人、視覚障害児は3,900人であり、肢体不自由児は全身障害児の約6割を占めている。

身体障害児数

	実 数					
	総 数	視 覚 障 害	聴 ・ 言 障 害	肢 体 不 自 由	内 部 障 害	重複障害 (再掲)
40年	116,600	14,400	26,000	76,200	—	41,100
45年	93,800	7,000	23,700	57,500	5,600	12,600
62年	92,500	5,800	13,600	53,300	19,800	6,600
3年	81,000	3,900	11,200	48,500	17,500	6,300
	構 成 比					
	総 数	視 覚 障 害	聴 ・ 言 障 害	肢 体 不 自 由	内 部 障 害	重複障害 (再掲)
40年	(100.0)	(12.3)	(22.3)	(65.4)	(—)	(35.2)
45年	(100.0)	(7.5)	(25.3)	(61.3)	(6.0)	(13.4)
62年	(100.0)	(6.3)	(14.7)	(57.6)	(21.4)	(7.1)
3年	(100.0)	(4.8)	(13.8)	(59.9)	(21.6)	(7.8)
	前 回 比					
	総 数	視 覚 障 害	聴 ・ 言 障 害	肢 体 不 自 由	内 部 障 害	重複障害 (再掲)
40年	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
45年	(80.5)	(48.6)	(91.2)	(75.5)	(—)	(30.7)
62年	(98.6)	(82.9)	(57.4)	(92.7)	(353.6)	(52.4)
3年	(87.6)	(67.2)	(82.4)	(91.0)	(88.4)	(95.5)

障害の種類別，身体障害児の推移



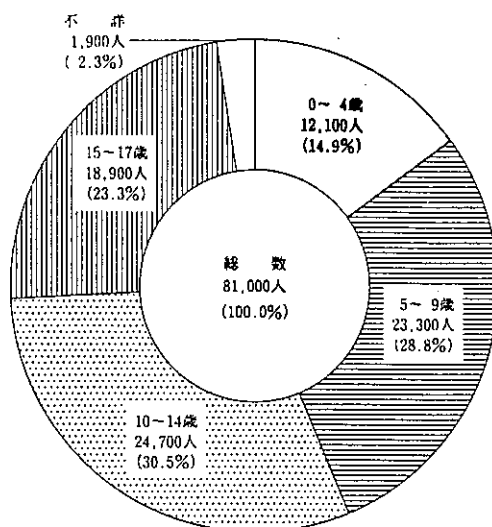
(2) 年齢階層別状況等

- ① 年齢階層別に身体障害児数の構成比をみると，10～14歳の階層が約30%を占め最も多く，年齢階層が低くなるに従って，その構成比は減少している。前回調査との比較でみると各年齢階層とも減少している。
- ② 障害の種類別に年齢階層別の分布をみると，5～9歳の階層で，内部障害，重複障害，聴覚音声言語障害の占める割合が最も多いのに対し，肢体不自由は10～14歳の階層，視覚障害は15～17歳の階層が最も高いなど，障害別に差異がみられる。

年齢階層別，身体障害児の分布状況

		総数	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～17歳	不詳
3年11月 (構成比)		81,000 (100.0)	12,100 (14.9)	23,300 (28.8)	24,700 (30.5)	18,900 (23.3)	1,900 (2.3)
62年2月 (構成比)		92,500 (100.0)	12,400 (13.4)	26,800 (29.0)	31,900 (34.5)	21,400 (23.1)	
増加率		(87.6)	(97.6)	(86.9)	(77.4)	(88.3)	
3 年 11 月 内 訳	視覚障害	3,900 (100.0)	(25.0)	(12.5)	(25.0)	(37.5)	(—)
	聴・言障害	11,200 (100.0)	(17.4)	(34.8)	(30.4)	(17.4)	(—)
	肢体不自由	48,500 (100.0)	(13.0)	(25.0)	(30.0)	(29.0)	(3.0)
	内部障害	17,500 (100.0)	(16.7)	(38.9)	(33.3)	(8.3)	(2.8)
	重複障害 (再掲)	6,300 (100.0)	(7.7)	(38.5)	(30.8)	(23.1)	(—)

年齢別身体障害児の状況



③ 身体障害児の人口比は、人口1,000人に対し2.9人であり、前回調査とほぼ同じである。また、年齢階層別の人口比も、前回同様、4歳以下が低くなっている。

年齢階層別、身体障害児の人口比 (対千人)

3年11月 調査	62年2月 調査	3年11月内訳			
		0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～17歳
2.9	3.0	1.9	3.2	3.0	3.3

(3) 障害の程度別状況

身体障害児の障害の程度についてみると、1・2級の重い障害を有する身体障害児は、48,500人で59.9%を占め、また、前回調査と比較すると、特に、障害の重い1級での増加が目立っており、障害の重度化の傾向がみられる。

身体障害児の障害の程度別状況

	実 数							
	総 数	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	不 明
3年11月	81,000	32,000	16,500	14,100	6,800	2,900	3,400	5,300
62年2月	92,500	25,300	19,000	20,600	6,600	4,700	2,700	13,600
増加率	(87.6)	(126.5)	(86.8)	(68.4)	(103.0)	(61.7)	(125.9)	(39.0)
	構 成 比							
	総 数	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	不 明
3年11月	(100.0)	(39.5)	(20.4)	(17.4)	(8.4)	(3.6)	(4.2)	(6.5)
62年2月	(100.0)	(27.4)	(20.5)	(22.3)	(7.1)	(5.1)	(2.9)	(14.7)
増加率	(100.0)	(144.2)	(99.5)	(78.0)	(118.3)	(70.6)	(144.8)	(44.2)

(4) 障害の原因別状況

身体障害を原因別にみると、疾病によるものが60.0%、事故によるものが6.7%、不明が26.3%、不詳が7.2%となっている。

身体障害児の障害の原因別状況

	総数	事故			疾病						不明	不詳
		交通事故	その他の事故	小計	出生時の損傷	感染症	中毒性疾患	その他の疾患	その他	小計		
3年11月	81,000 (100.0)	1,000 (1.2)	4,400 (5.4)	5,400 (6.7)	20,400 (25.2)	3,400 (4.2)	— (—)	11,200 (13.8)	13,600 (16.8)	48,600 (60.0)	21,300 (26.3)	5,800 (7.2)
62年2月	92,500 (100.0)	800 (0.9)	3,500 (3.8)	4,300 (4.7)	30,300 (32.7)	3,100 (3.3)	400 (0.4)	21,800 (23.6)	12,000 (13.0)	67,600 (73.0)	20,600 (22.3)	
増加率	(87.6)	(125.0)	(125.7)	(125.6)	(67.3)	(109.7)	(—)	(51.4)	(113.3)	(71.9)	(103.4)	

(注1) 掲載の数値は四捨五入してあるため、内訳の合計が「総数」に合わない場合がある。

(注2) 掲載の表の単位は「人」、()は%である。

(体の不自由な人びとの福祉 '92 :平成5年(財)テクノエイド協会より)

この報告書は、社会福祉・医療事業団（長寿社会福祉基金）の助成により作成したものです。

朝起きてから夜寝るまでの不便さ調査

初版第1刷発行 平成 5年 10月発行
初版第2刷発行 平成 7年 12月発行
初版第3刷発行 平成 9年 10月発行
初版第4刷発行 平成11年 3月発行
初版第5刷発行 平成19年 8月発行

発行 社会福祉法人 日本点字図書館
〒169-8586 東京都新宿区高田馬場 1-23-4
電話 03-3209-0751
FAX 03-3200-4133

制作 財団法人 共用品推進機構（E&Cプロジェクト）
〒101-0064 東京都千代田区猿樂町 2-5-4
OGAビル 2F
電話 03-5280-0020
FAX 03-5280-2373